

麻布台ヒルズ ファクトブック 2023



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

■ 開発概要	・・・P.1	■ ヒルズネットワーク	・・・P.53
■ 開発コンセプト	・・・P.7	■ 安全・安心の取り組み	・・・P.55
■ 施設概要	・・・P.13	■ 環境の取り組み	・・・P.57
中央広場・緑化空間	・・・P.15	■ 地域のインフラ強化	・・・P.59
慶應義塾大学予防医療センター	・・・P.17		
ブリティッシュ・スクール・イン 東京	・・・P.19	(参考)	
アート&ギャラリー	・・・P.21	森ビルの磁力ある都市づくり	・・・P.61
パブリックアート	・・・P.22	森ビルの戦略エリア	
森ビル デジタルアート ミュージアム:		(国際新都心創出への道のり)	・・・P.63
エプソン チームラボボーダレス	・・・P.23	世界の都市総合ランキング	・・・P.71
麻布台ヒルズギャラリー	・・・P.25		
アート&ギャラリー店舗	・・・P.27		
商業施設	・・・P.28		
麻布台ヒルズ マーケット	・・・P.37		
麻布台ヒルズレジデンス	・・・P.41		
ジャヌ東京	・・・P.44		
オフィス	・・・P.45		
ヒルズハウス	・・・P.47		
Tokyo Venture Capital Hub	・・・P.51		

これまでのヒルズで培ったすべてを注ぎ込んだ 「ヒルズの未来形」が誕生

「麻布台ヒルズ」は、「アークヒルズ」に隣接し、「文化都心・六本木ヒルズ」と、「グローバルビジネスセンター・虎ノ門ヒルズ」の間にあり、文化とビジネスの両方の個性を備えたエリアに立地しています。

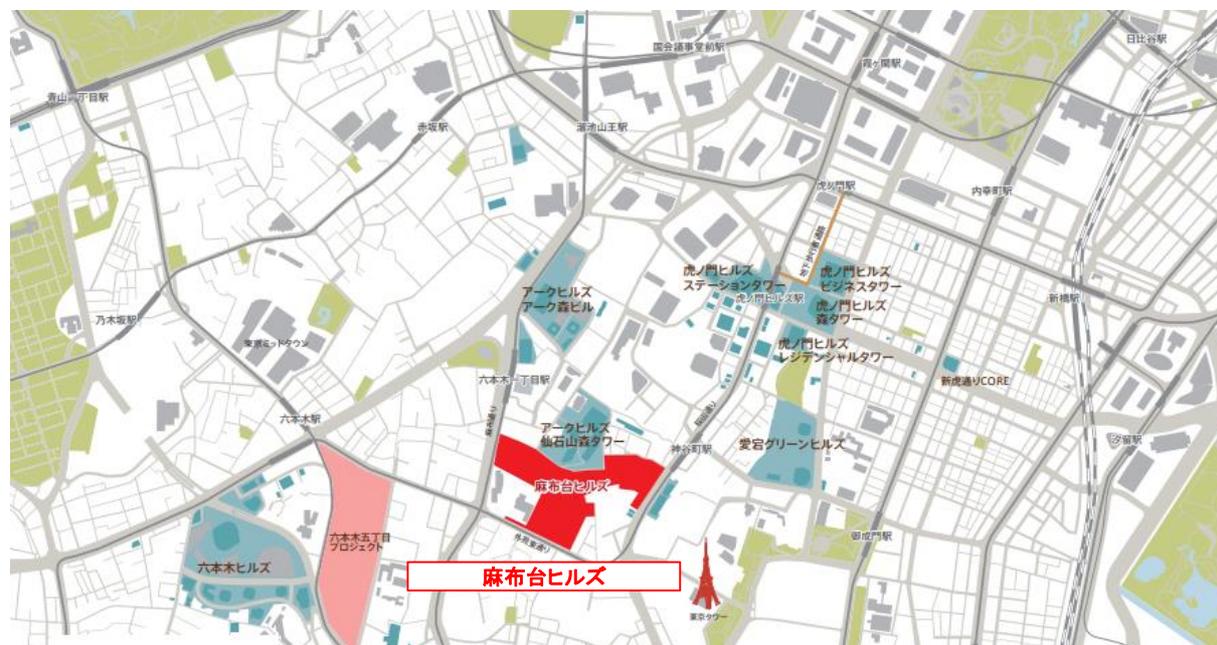
約8.1haもの広大な計画区域は圧倒的な緑に包まれ、約6,000㎡の中央広場を含む緑化面積約24,000㎡、延床面積約861,700㎡、オフィス貸室面積約214,500㎡、住戸数約1,400戸、「森JPタワー」の高さは約330m、就業者数約20,000人、居住者数約3,500人、年間来街者数約3,000万人で、そのスケールとインパクトは「六本木ヒルズ」に匹敵します。

「麻布台ヒルズ」は、当社が理想とする「都市の中の都市(コンパクトシティ)」であり、これまでのヒルズで培ったすべてを注ぎ込んだ「ヒルズの未来形」です。



麻布台ヒルズ完成イメージ

© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills



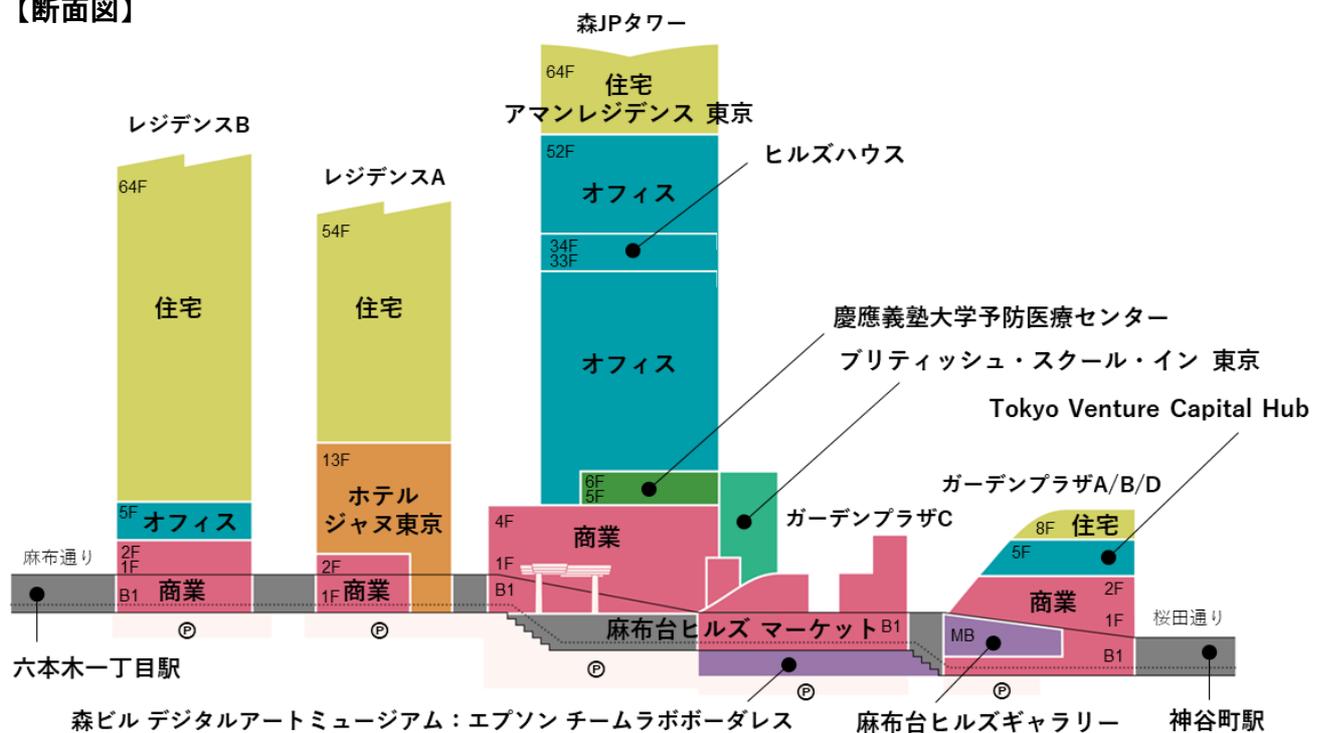
周辺エリアマップ

- ・事業名称 : 虎ノ門・麻布台地区第一種市街地再開発事業
 - ・事業者 : 虎ノ門・麻布台地区市街地再開発組合
 - ・事業手法 : 市街地再開発事業
 - ・位置 : 港区虎ノ門五丁目、麻布台一丁目および六本木三丁目の各地内
-
- ・区域面積 : 約8.1ha(施行地区面積)
 - ・敷地面積 : 約63,900㎡(約19,330坪)
 - ・延床面積 : 約861,700㎡(約260,660坪)
 - ・主要用途 : 事務所、住宅、店舗、ホテル、文化施設、
インターナショナルスクール、診療所 等
 - ・駐車場 : 1,874台
 - ・事業費 : 約6,400億円
 - ・組合員数 : 273名(2023年5月時点)
 - ・着工 : 2019年8月5日
 - ・開業 : 2023年11月24日(予定)

【配置図】



【断面図】



多くの地元の方々と共に、長い年月をかけて取り組んできた 大規模都市再生事業(第一種市街地再開発事業)

「麻布台ヒルズ」プロジェクトの推進にあたっては、1989年(平成元年)に「街づくり協議会」を設立し、以降30年超という長い年月をかけて、立場や事情の異なる約300人の権利者の方々と共に粘り強く議論を重ね、計画を進めてきました。2017年(平成29年)には国家戦略特区法に基づき都市計画決定され、2018年(平成30年)3月の再開発組合設立認可を経て、2019年(令和元年)8月5日に着工を迎えました。2023年(令和5年)11月24日に開業予定です。

1989年3月	「我善坊地区街づくり協議会」 設立
1989年5月	「八幡町地区街づくり協議会」 設立
1989年12月	「仙石山地区街づくり協議会」 設立
1993年2月	「虎ノ門・麻布台地区市街地再開発準備組合」 設立
2014年7月	事業区域を拡大
2014年10月	東京圏国家戦略特別区域会議(第1回)
2016年12月	都市計画提案
2017年9月	国家戦略特別区域法に基づく区域計画が認定、都市計画決定
2018年3月	「虎ノ門・麻布台地区市街地再開発組合」 設立認可
2019年2月	権利変換計画認可
2019年8月5日	着工
2023年11月24日	開業



組合の会合の様子



起工式(2019年8月5日)



起工式(2019年8月5日)



森JPタワー 上棟式(2022年4月21日)

「麻布台ヒルズ」の計画地は、東西に細長く、高台と谷地が入り組んだ高低差の大きい地形です。敷地は細分化され、小規模な木造住宅やビルが密集し、建物の老朽化も進むなど、都市インフラからの整備が必要な状況でした。都市再開発法に基づく第一種市街地再開発事業によって、これらの課題を解決するとともに、道路や公園なども整備し、防犯・防災面においても都市機能の更新を実現します。



開発前の計画地(空撮写真)



開発前の計画地の街並み

六本木ヒルズにも匹敵する、圧倒的なスケールとインパクト

「麻布台ヒルズ」のスケールとインパクトは圧倒的なものです。

総延床面積約861,700㎡、オフィス総貸室面積約214,500㎡、オフィス基準階面積約4,800㎡、住宅戸数約1,400戸、「森JPタワー」の高さ約330m、就業者数約20,000人、居住者数約3,500人と、いずれも「六本木ヒルズ」に匹敵するものであり、これまでに森ビルが手掛けてきた都市再生事業の中でも最大規模となります。

	麻布台ヒルズ	六本木ヒルズ (2003年開業時点)
プロジェクト名	 © DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills	

区域面積	約8.1ha	約11.6ha
建物高さ	約330m (森JPタワー)	約238m (森タワー)
敷地面積	約63,900㎡(約19,330坪)	約89,200㎡(約27,000坪)
延床面積	約861,700㎡(約260,660坪)	約759,100㎡(約230,000坪)

事務所	貸室面積	約214,500㎡(約64,900坪)	約190,870㎡(約55,000坪)
	基準階	約4,800㎡(約1,450坪)	約4,500㎡(約1,360坪)
	就業者数	約20,000人	約15,000人
住宅	戸数	約1,400戸	約840戸
	居住者数	約3,500人	約2,000人
商業	店舗数 店舗面積	約150店 約23,000㎡(約7,000坪)	約210店 約40,000㎡(約12,000坪)
ホテル	客室数	122室	約390室

緑化面積	約24,000㎡(約7,200坪)	約19,000㎡(約5,800坪)
------	-------------------	-------------------

世界から超一流の才能が東京に集結

「麻布台ヒルズ」には、世界中から超一流の才能が集結し、一丸となって計画全体を練り上げてきました。

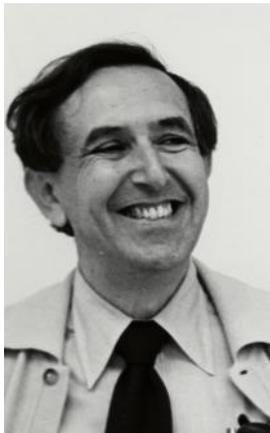
3棟の超高層タワーの外観デザインは、アメリカのPC&P(ペリ・クラーク・アンド・パートナーズ)が担当しました。世界各国でランドマークとなる超高層タワーをデザインし、国内では当社の「愛宕グリーンヒルズ」や「アークヒルズ仙石山森タワー」などを手掛けています。PC&Pの創設者であり、偉大な建築家でもある故シーザー・ペリ氏は、「個々の建築デザインはより良い街を実現するためにあるのだ」という哲学をお持ちでした。それは私たち森ビルの思想とも一致するものです。

低層部のユニークな建築とランドスケープは、イギリスのトーマス・ヘザウィック氏がデザインしました。ヘザウィック氏は、ロンドンオリンピックの聖火台を始め、数々の独創的なプロジェクトを手掛けてきたデザイナーです。「麻布台ヒルズ」は、ヘザウィック・スタジオが日本で初めて手掛けるプロジェクトとなります。

その他にも、「森JPタワー」の商業空間デザインに藤本壮介氏と小坂竜氏、住宅のインテリアデザインにグレン・プッシュェルバーグ氏とジョージ・ヤブ氏、マルコ・コスタンツィ氏、スー・K・チャン氏を起用。また、プロジェクトのコンセプトワークにはタイラー・ブリュレ氏を起用しました。

森ビルが強いリーダーシップをもってプロジェクトの要となり、世界から集まった才能あふれるチームをまとめ上げることで、多様でありながら一体感のある、唯一無二の街が誕生します。

タワー外観デザイン



故シーザー・ペリ氏
Pelli Clarke & Partners
(米国)



フレッド・W・クラーク氏
Pelli Clarke & Partners
(米国)

低層部デザイン



©Raquel Deniz
トーマス・ヘザウィック氏
Heatherwick Studio
(英国)

コンセプトワーク



タイラー・ブリュレ氏
Winkreative
(スイス)

住宅インテリアデザイン



グレン・プッシュェルバーグ氏、
ジョージ・ヤブ氏
Yabu Pushelberg
(カナダ、米国)

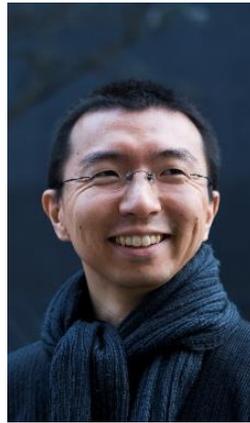


マルコ・コスタンツィ氏
Marco Costanzi Architects
(イタリア)



スー・K・チャン氏
SCDA アーキテクト
(シンガポール)

商業空間デザイン



©David Vintiner
藤本壮介氏
藤本壮介建築設計事務所
(日本)



小坂竜氏
乃村工藝社A.N.D.
(日本)

緑に包まれ、人と人をつなぐ「広場」のような街 “Modern Urban Village ~Green & Wellness~”

「麻布台ヒルズ」は、開発思想においても、世界に類を見ない、全く新しい都市づくりです。

テクノロジーが進歩し、働き方、暮らし方、そして生き方までもが大きく変わろうとしている今、「都市とはどうあるべきなのか?」「都市の本質とは何なのか?」という問いからプロジェクトがスタートしました。森ビルはこれまでも「都市の本質は、そこに生きる人にある」と考えてきましたが、改めて、人々がより人間らしく生きられる都市のあり方を考えました。

「麻布台ヒルズ」の開発コンセプトは「Modern Urban Village」。「緑に包まれ、人と人をつなぐ『広場』のような街」です。そして、「Modern Urban Village」を支えるふたつの柱は「Green」と「Wellness」。圧倒的な緑に囲まれ、自然と調和した環境の中で多様な人々が集い、より人間らしく生きられる新たなコミュニティの形成を目指します。



奈良美智
《東京の森の子》2023年

© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

約6,000㎡の広さを誇る緑豊かな中央広場(イメージ)



都市の先進性と利便性を存分に享受しながら暮らす



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
日常的に緑に関わり、持続可能な自然環境を自ら育てる



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
街全体をワークプレイスとし、自由かつ創造的に働く



豊かな自然の中で、国際感覚に優れた子どもたちを育む



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
ショッピングを通じて、新たな体験価値を享受する



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
食の本質的な楽しさを体験し、日々の暮らしを心豊かに過ごす



より健康で充実した毎日を送る



街全体から文化・芸術を発信する

「森ビル デジタルアート ミュージアム」
エフワン チームラボボーダレス
© チームラボ

「Green」 圧倒的な緑に囲まれ、都市と自然が調和した環境

「麻布台ヒルズ」を象徴する圧倒的な緑を実現するためには、建物の超高層化が必要でした。細分化された土地を取りまとめて大きな敷地を生み出し、そこに超高層タワーを建てることで、足元に緑豊かなオープンスペースを生み出す。この都市づくりの手法が、森ビルが長年にわたってこだわってきた「ヴァーティカル・ガーデン・シティ（立体緑園都市）」です。

さらに、「麻布台ヒルズ」では、コンセプトである「Modern Urban Village」を実現するため、まずはじめに人の流れや人が集まる場所を考え、街の中心に広場を据えてシームレスなランドスケープを計画。その後、3棟の超高層タワーを配置しました。これは、まず建物を配置し、空いたスペースを緑化するという、従来の手法とは全く逆のアプローチです。

高低差のある地形を生かして、低層部の屋上を含む敷地全体を緑化することで、都心の既成市街地でありながら、約6,000㎡の中央広場を含む約24,000㎡の緑地を確保。

「麻布台ヒルズ」では、街全体で緑と水がつながり、自然あふれる憩いの場を創出しています。

緑化面積（港区緑化計画書）	： 約24,000㎡（約7,200坪）
中央広場	： 約6,000㎡（約1,820坪）
植栽	： 約320種



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

建物を超高層化することで、地上部に圧倒的な緑を実現（イメージ）

「麻布台ヒルズ」では、人々が触れられる緑を目指して、四季ごとに表情を変える約320種もの多様な植栽が街中に広がっています。例えば、「中央広場」の周囲は落葉樹を中心に計画され、高さ13mのケヤキやハクウンボク、イヌシデ、コナラ、アオダモ、イロハモミジなど、地域の在来植生からは季節の移り変わりを感じることができます。また、地形の高低差を生かして敷地全体に流れる水は「中央広場」につながり、水生植物、草地、低木植栽が連続するエコトーンを形成。階層構造を持ちながら、生きものの住処となるような植栽を目指しています。

都市の中に新たにつくられる自然には、継続的な手入れが必要です。「麻布台ヒルズ」では、多くの人々が日常的に緑に関わり、自ら育てていくことを目指します。持続可能な自然環境を育てながら、そこで暮らし、働き、明日への思索を深めてゆく場を提供します。

起伏に富んだ地形が織りなす台地と谷、水辺の多様な植生と、これらに依拠する生きもの達とのふれあいは、四季の変化とともに移ろいます。「麻布台ヒルズ」では、人間も生態系の一部であり、様々な動植物と共生していることを身近に感じられるでしょう。



奈良美智
《東京の森の子》2023年
© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
約6,000㎡の広さを誇る緑豊かな中央広場(イメージ)



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
建物屋上に誕生する果樹園(イメージ)



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
屋上緑化が施されたガーデンプラザ(イメージ)



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
緑と水がつながるランドスケープ(イメージ)

さらに、街全体で「RE100 (Renewable Energy 100%)」に対応する再生可能エネルギーの電力を100%供給するなど、脱炭素や資源循環型の都市への取り組みも推進。

これらの取り組みが評価され、国際的な環境認証プログラム「LEED (Leadership in Energy & Environmental Design)」の複合的なエリア開発の評価カテゴリ「LEED-ND (Neighborhood Development)」および新築テナントビルを対象とした建物単位の評価カテゴリ「BD+C (CS) (Building Design and Construction/Core and Shell Development)」において、最高ランクのプラチナ認証を取得する予定です。



「Wellness」 そこに暮らすことで人々が健康になれる街

「ウェルネス」とは、単に健全な食生活や継続的な運動だけではなく、心の豊かさやスマートな働き方、コミュニティとの充実した関係性を築くことでもあります。「ウェルネス」は、世界的に注目されている時代のテーマであり、「麻布台ヒルズ」のコンセプトを支える柱の1つです。



麻布台ヒルズにおけるウェルネス構想

「麻布台ヒルズ」では、「そこに暮らすことで人々が健康になれる街」の実現を目指します。医療施設を核として、スパやフィットネスクラブ、レストランやフードマーケットといった様々な施設を連携させることで、この街に住み、働くことのすべてがウェルネスに繋がる仕組みを構築します。

さらに、未来型のウェルネスの実現に向けて、大学との共同研究や先端的なデジタル技術の実装などにも街を挙げて取り組み、健康寿命の延伸やウェルビーイングの向上といった社会課題の解決にも貢献します。



これらの取り組みに加えて、「中央広場を中心とした緑化」「高い室内空気質環境」「カフェでの健康的な食事の提供」「広場などの歩行による運動の促進」などが評価され、「森JPタワー」のオフィス・商業施設部分で「WELL」の予備認証を取得。本認証取得の際は、世界1位の面積のプラチナランク認証取得物件となる予定です。

LEED ND、LEED BD+Cに加えて、WELL認証でも最高位のプラチナランクの本認証を取得した際には、世界初の事例となる見込みです。



森ビルと慶應義塾が基本協定を締結



×



慶應義塾

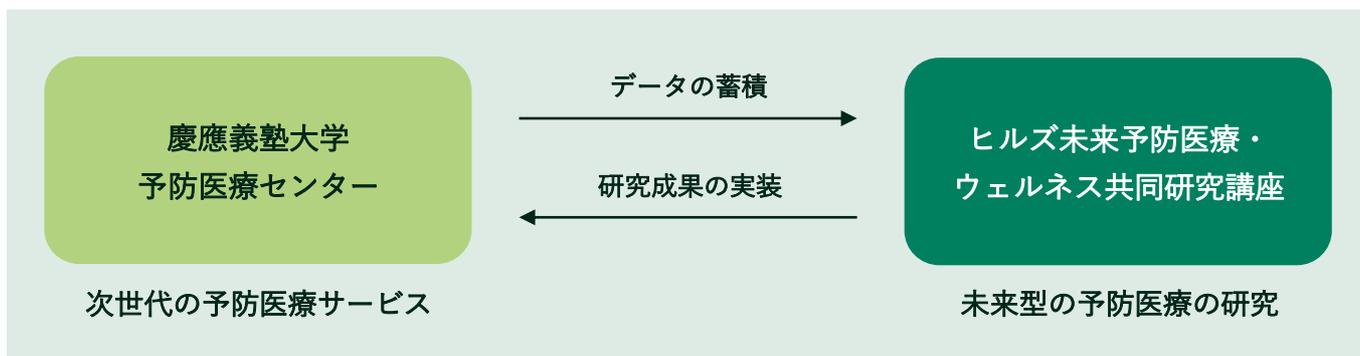
慶應義塾は、初代医学部長・病院長である北里柴三郎の精神に則り、医学部・大学病院開設当初より、慶應医学の原点として予防医療の意義を掲げてきました。そして今、人生100年時代において、人々が健康的な生活を送ることができる豊かな社会を目指して、未来型の予防医療を追求しています。しかし、更なる予防医療の発展のためには、病院の枠を超えた、社会全体での取り組みが不可欠との課題意識がありました。

一方、森ビルは、都市に生きるうえで心身の健康や豊かさ、ウェルネスという価値がますます重要になるという考えのもと、「これからの街づくりやヒルズライフにもウェルネスの考え方を取り入れる必要がある」と考えていました。そして、森ビルと慶應義塾の想いが合致し、多様な都市機能が高度に複合し、年齢、国籍、健康状態の異なる様々な人々が暮らす「麻布台ヒルズ」で未来型の予防医療・ウェルネスを追求すべく、2021年3月に基本協定締結に至りました。

当基本協定により、「予防医療センター」を慶應義塾大学病院(新宿区信濃町)から「麻布台ヒルズ」に拡張移転。大学病院ならではの最新の設備と高精度の人間ドックで、疾患のリスクを早期に発見するとともに、個別化する受診者のニーズやリスクに応じた最適な予防医療を展開します。

さらに、2021年4月に「ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座」を開設。森ビルが管理・運営する「街(ヒルズ)」で、多様なライフステージにおける人々の健康課題を把握し、「予防医療センター」とも連携しながら未来型の予防医療・ウェルネスに関する研究に取り組むことで、予防医療の学際的な発展を目指します。

加えて、森ビルは2023年度より慶應義塾大学医学部主催「健康医療ベンチャー大賞」に新たに設けられたウェルネスリーグに協賛。研究成果の事業化、ウェルネス領域のベンチャー企業支援にも取り組み、次世代の健康づくりに貢献していきます。



予防医療センターと共同研究講座の連携



学校法人慶應義塾
常任理事
北川 雄光



学校法人慶應義塾
常任理事
天谷 雅行



慶應義塾大学医学部
医学部長
金井 隆典

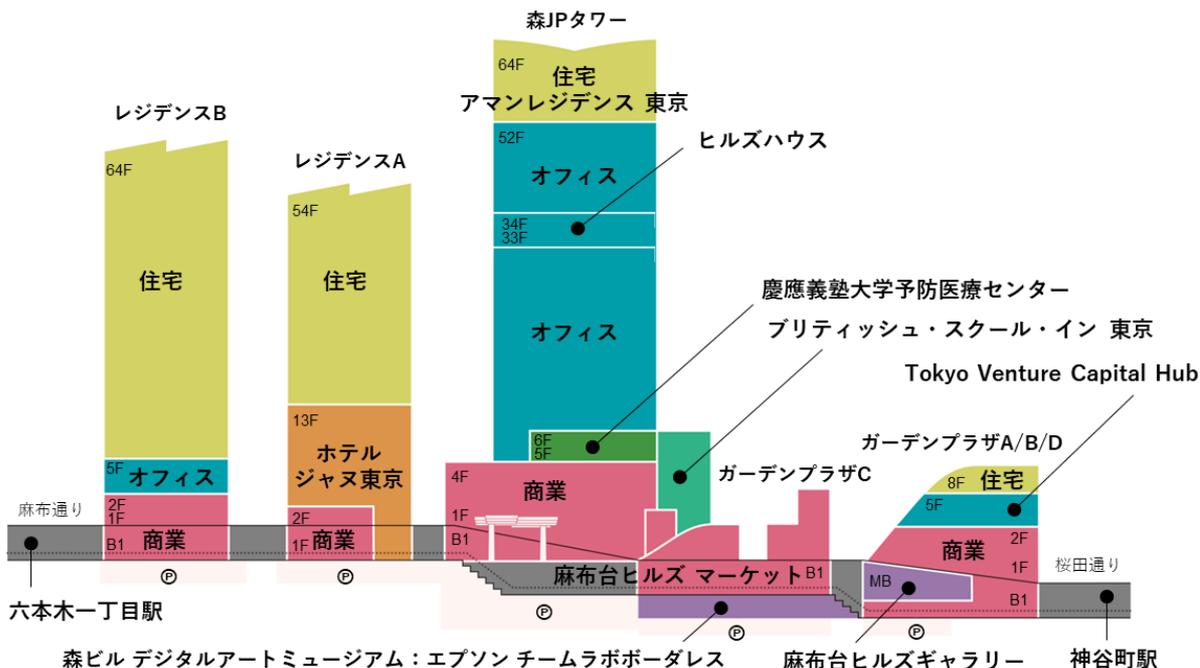


慶應義塾大学病院
病院長
松本 守雄

多様な都市機能が徒歩圏内に集約された 都市の中の都市(コンパクトシティ)

「麻布台ヒルズ」は、オフィス、住宅、ホテルなどの施設ありきで都市を設計するのではなく、施設の垣根を取り払い、人間の営みを中心に発想しました。

この街では、「暮らす」「働く」「集う」「憩う」「学ぶ」「楽しむ」「遊ぶ」など、人々の様々な営みが徒歩圏内でシームレスにつながり、人と自然とが調和し、人と人がつながり、刺激しあいながら創造的に生きられる、豊かな「ヒルズライフ」を実現します。「麻布台ヒルズ」では、緑豊かな街全体が我が家となり、仕事場となり、学びや遊びの場となります。



グローバル企業のニーズを満たす国際水準のオフィス

総貸室面積約214,500㎡、就業者数は約20,000人を想定。強固なBCP対策や街全体に対する「RE100」対応の電力供給など高い付加価値を提供。人々の自由かつ創造的な働き方をサポートします。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

街全体をワークプレイスにするための拠点「ヒルズハウス」

ワーカーが集うクラブハウスとしての「場」と、街の様々な機能やサービスをカスタマイズできる「仕掛け」を提供。街と企業が連携して理想的な働き方を模索し、生み出していきます。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

日本初のVC集積拠点「Tokyo Venture Capital Hub」

独立系ベンチャーキャピタルとコーポレートベンチャーキャピタル約70社が集い、スタートアップの成長に欠かせないリスクマネーを供給。日本経済活性化の起爆剤となることを目指します。



健康寿命の延伸に貢献する「慶應義塾大学予防医療センター」

最新の医療機器と高い専門性を有する大学病院のスタッフによる高精度な人間ドックに加えて、個別の受診者のニーズに応じた最適な健診プログラムを展開。街の様々な施設とも連携し、街全体で人々の健康をサポートしていきます。



究極の非日常と穏やかさに包まれた「アマンレジデンス 東京」

世界各地、唯一無二の特別な場所でラグジュアリーリゾートを手掛けるアマンと組んだ、わずか91邸の他にはないエクスクルーシブなレジデンス。



世界初登場のアマン姉妹ブランドホテル「ジャズ東京」

アマンの新ブランド「ジャズ」のホテルが誕生。全122室、都内ホテル最大級のウェルネス施設も備え、国内外から訪れるゲストを温かなホスピタリティでお迎えます。



新たな体験や楽しさを提供する商業施設

都心の真ん中にありながら、圧倒的な緑に包まれた環境の中に、ファッション、フード、ビューティー、カルチャー、アート、ウェルネスなど、約150店舗が集結。新たな体験価値を享受できる、豊かなライフスタイルを提案します。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

街の文化発信拠点「麻布台ヒルズギャラリー」

「街全体がミュージアム」をテーマに、街の文化発信の中核となる「麻布台ヒルズギャラリー」。美術館仕様の施設・設備を備え、アート、ファッション、エンターテインメントなど、多様なジャンルの文化を発信します。



日常生活とアートの境界をなくすパブリックアート

空間の壮大なスケール感とヒューマンスケールの融合、人間と宇宙の繋がりなどを感じられ、「麻布台ヒルズ」で生成される自然界のエネルギーを可視化するような作品を選定しました。



オラファー・エリアソン
《相互に繋がりあう瞬間が協和する周期》
2023年

緑の中で、都市に生きる豊かさを最大化するレジデンス

長年にわたり蓄積してきた森ビルの住宅事業のノウハウを注ぎ込んだ、都市に生きることの豊かさ「ヒルズライフ」を余すことなく享受できるレジデンス。



都心最大級のインターナショナルスクール

「プリティッシュ・スクール・イン 東京」は、60か国以上の国籍の生徒が在籍する、国際色豊かな学校。豊かな自然を感じられる環境の中、国際感覚に優れた、未来を担う子どもたちを育みます。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

食の本質的な楽しさや豊かさを享受する「麻布台ヒルズマーケット」

「世界に誇れる次世代型マーケットを創る」のコンセプトに賛同し、日本を代表する31の専門店が集結。単に販売するだけでなく、街の内外と協働し、学びや発見の場を設けることで、食の本質的な楽しさや豊かさを提供します。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

「森ビル デジタルアートミュージアム:エプソン チームラボボーダレス」

お台場で国内外から多くのお客様をひきつけた「森ビル デジタルアート ミュージアム:エプソン チームラボボーダレス」が麻布台に移転。新たな作品や日本未公開作品も多数加わります。



© チームラボ

広大な緑の中で人と人をつなぐ「中央広場」

四季ごとに表情を変える約320種の多様な植栽が広がり、人が触れられる緑を目指します。広場内の「麻布台ヒルズアリーナ」からは、街の賑わいを創出します。



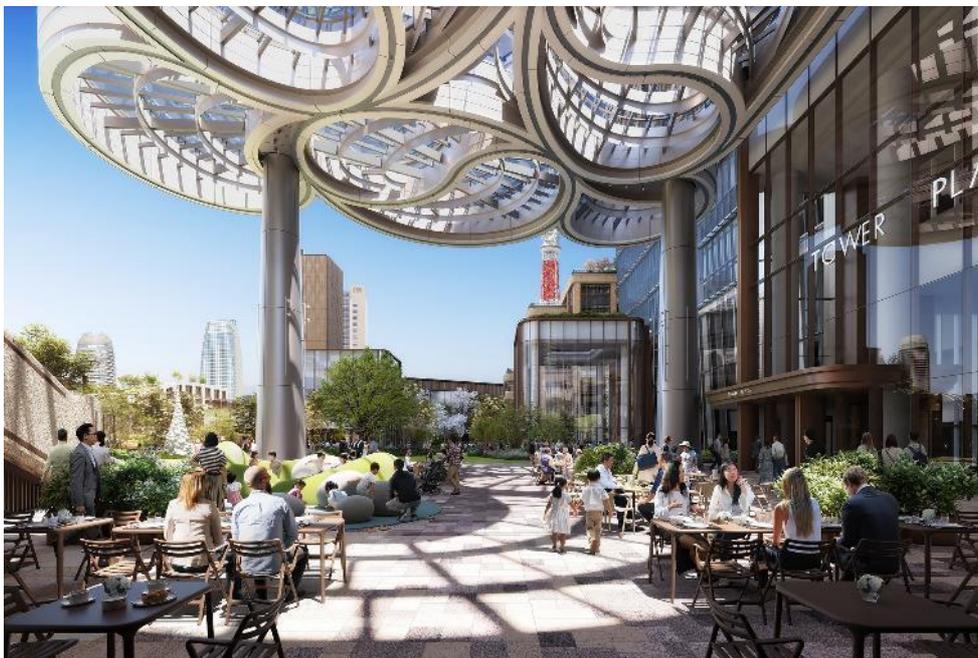
© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
奈良美智
《東京の森の子》2023年

「中央広場」 圧倒的な緑に囲まれながら、街全体の賑わいを創出

約6,000㎡の「中央広場」は、緑豊かな憩いの空間としてだけでなく、人と人をつなぐ街のシンボルとしても機能します。

賑わいの中心となるのは、「中央広場」内に位置し、緑に囲まれた「麻布台ヒルズアリーナ」。この街の特徴的なランドスケープを手掛けたヘザウィック・スタジオがデザインした大屋根を冠するオープンスペースは、多様なイベントに対応できる設備を備えています。また、隣接する約550㎡の芝生広場や、カフェ兼イベントスペースの「麻布台ヒルズカフェ」も利用可能です。

圧倒的な緑に包まれながら開催される四季折々の多様なイベントを通じて、「麻布台ヒルズ」の中心から街全体の賑わいを創出します。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

麻布台ヒルズアリーナ(イメージ)

中央広場	： 約6,000㎡(約1,820坪)
麻布台ヒルズアリーナ	： 約500㎡(約152坪) 天高約16m
麻布台ヒルズカフェ	： 約148㎡(約44.8坪)



麻布台ヒルズカフェ(イメージ)

The Cloud(大屋根)

「森JPタワー」に隣接する大屋根は、屋外のイベントスペースに必要な機能としてのみならず、アート性を包含したパブリックアートとしても位置付けられます。「The Cloud」は、「中央広場」のアイコンとしての役割も果たします。

デザインは、「麻布台ヒルズアリーナ」で行われるイベントやアクティビティから流れてくるようなエネルギーを反映した、「動きのある、動的な雲」である「吊るし雲」をモチーフとしています。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
大屋根(イメージ)

四季の移ろいを感じられる緑化空間 高低差のある地形を生かし、自然あふれる憩いの空間を創出

高低差のある地形を生かして、低層部の屋上を含む敷地全体を緑化することで、都心にありながら、約24,000㎡もの広大な緑地を確保することができました。緑と水がつながるランドスケープを整備し、果樹園や通り、街の出入口など、「麻布台ヒルズ」内の各地で、自然豊かな空間を実現しています。

果樹園

中央広場から望む斜面緑地に、約200㎡の果樹園を計画。収穫を想定しているエリアでは、温州ミカンやブルーベリー、レモン、リンゴ、モモ、ダイダイ、スモモなど11種の果樹を育てます。また、収穫時には、人々が実際に触れる機会をつくることで、体験やコミュニケーションの場としても育てていきます。

足元にはハーブやエディブルプランツを植えて、五感で楽しめるエリアを創出。加えて、テラスや約45㎡の菜園も併設。商業店舗など、街の各施設と連携したプログラムも計画していきます。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
建物屋上に誕生する果樹園(イメージ)

桜麻通り

本来の自然環境を再現し、既存の街並みとの調和を図るべく、街路樹は単一樹種ではなく、常緑樹・落葉樹が混交した常落混交並木で計画。雑木林の中を通り抜ける道を表現しました。道路の高木だけで10種、民地を含めると34種の在来植生中心の高木並木で構成された桜麻通りでは、野山を散策するように四季の移ろいを感じられます。

春にはイロハモミジの新芽が芽吹き、初夏にはミズキやヤマボウシが花をつけ、夏には深緑、秋にはモミジの紅葉、冬は常緑の葉を残すシラカシや落葉樹の姿が楽しめます。足元の緑も多様な樹種で構成され、季節によって咲く花が変化。散策するたびに新たな発見があるでしょう。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
四季の移ろいを感じられる桜麻通り(イメージ)

桜のゲートウェイ

街の出入口となるエリアごとに開花期の異なる桜を植えて、桜のゲートウェイを設けました。標高の低い地点から開花ステージを3段階に分け、春の初めから終わりまで桜を長く楽しめるよう工夫しています。

2月には桜田通り沿いでカワヅザクラが花をつけ始め、4月には中央広場の入り口でソメイヨシノが満開を迎えます。広場周辺ではヤマザクラやオオシマザクラ、シダレザクラ、ジンダイアケボノも開花します。その後、5月上旬には、麻布通り沿いや外苑東通り沿いのエリアで、フクロクジュやカンザンなどの八重桜が見頃を迎えます。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
日本の春を長く楽しめる桜のゲートウェイ(イメージ)

■施設概要：慶應義塾大学予防医療センター

「慶應義塾大学予防医療センター」 予防医療の可能性を切り拓き、健康寿命の延伸に貢献

「麻布台ヒルズ」に移転する「慶應義塾大学予防医療センター」は、2012年の開設以来、一人ひとりの人生と共に歩むことを大切にしながら、全ての人がいっまでも健康で充実した豊かな毎日をご過ごせる社会の実現を目指してきました。

移転後も、最新の医療機器と高い専門性を有する大学病院のスタッフによる高精度な人間ドックで疾患のリスクを早期に発見するとともに、個別化する受診者のニーズに応じた最適な健診プログラムを展開します。また、移転に伴う施設の拡張により混雑状態を緩和し、より多くの方々に快適に受診いただける環境も整備します。

5階の施設では最新の医療機器を用いて身体の部位や疾患に応じた各種検査メニューと大学病院の各診療科と連携したアフターケアを提供。6階では新たに「慶應義塾大学病院予防医療メンバーシップ」を開設し、「パーソナライズド予防医療」をコンセプトに、全身の検査に加えてパーソナルサポートチームを編成し、メンバーひとりひとりの健康課題や目標に寄り添った健康管理を継続的にサポートします。

さらに、共同研究講座との連携により、常に新しい診断・検査方法を追求し、未来の予防医療を創造していきます。また、同タワー4階の「麻布台クリニック」、「麻布台西堀歯科」や会員制フィットネスクラブ「ヒルズスパ」などの街の施設とも連携し、街全体で人々の健康をサポートしていきます。

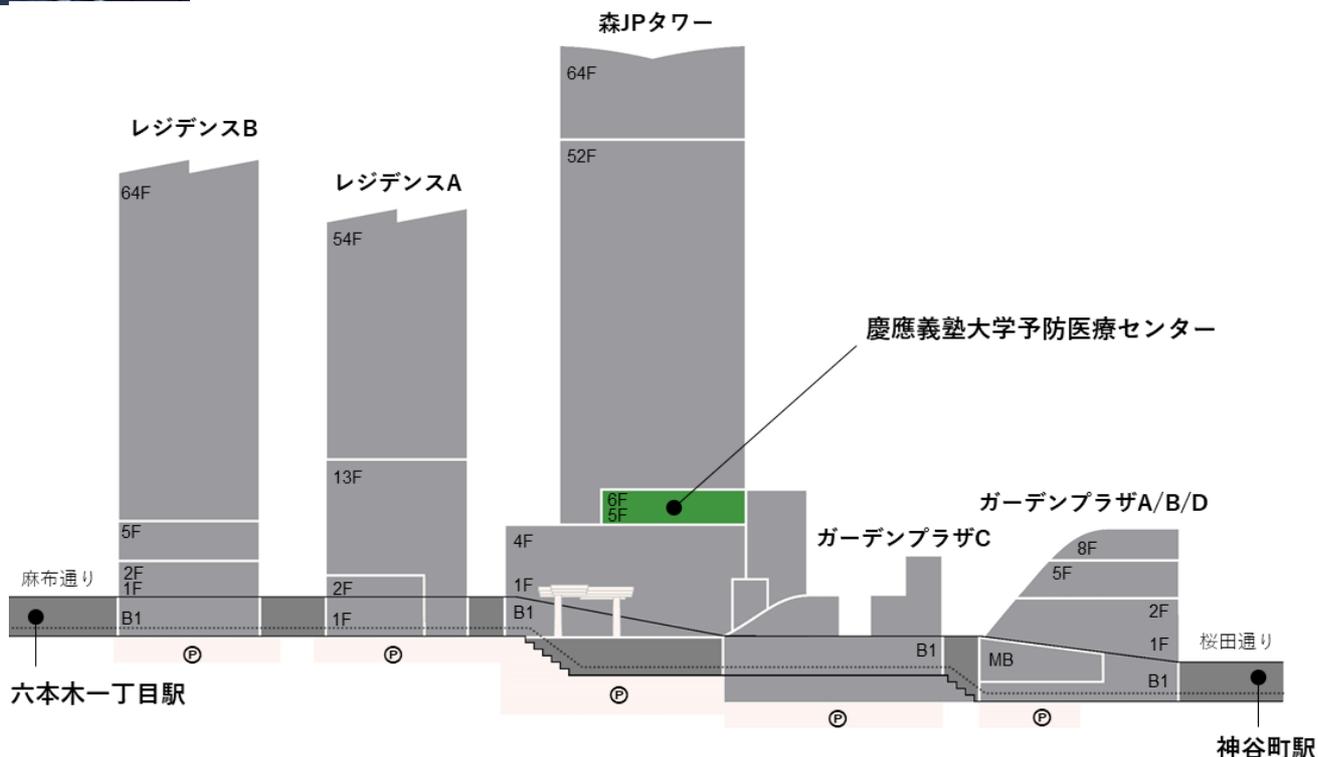
所在地：森JPタワー5階・6階
(5階)人間ドックフロア
(6階)メンバーシップフロア

施設面積：約3,900㎡(約1,180坪)
※2023年11月6日より検査開始予定



＜予防医療センター：予防医療センター長 高石 官均 教授＞

慶應義塾大学医学部腫瘍センター長を経て、2020年に予防医療センター長に就任し、麻布台ヒルズへの移転プロジェクトを推進。予防医学は疾患の予防だけでなく、健康寿命の延伸を目指す、総合的な健康増進のための学問であるべきという考えのもと、新しいセンターでは受診者の気持ちに寄り添い、より高度に個別化された予防医療の提供を目指す。





予防医療センター 5階エントランスホール(イメージ)



予防医療センター 6階面談室(イメージ)

<その他の医療機関>

麻布台クリニック(タワープラザ4階)

慶應義塾大学病院等でも活躍中の医師・スタッフが近隣医療機関と緊密な連携体制をとりながら診療。患者さんの“より健康で豊かな人生づくり”をプロデュースします。一般内科診療に加え、消化器内科、関節リウマチ・膠原病を専門とする医師による診療、充実した各種検診・人間ドックをご提供。「爪疾患」のスペシャリストでもある慶應義塾大学病院皮膚科出身の院長による皮膚科全般の診療はもちろんのこと、美容皮膚科領域の施術も行います。

<医療法人社団なかよし会: 理事長 高田 哲也 医師>

慶應義塾大学医学部を卒業後、リウマチ・膠原病内科にて臨床・研究および学生教育を行う。同医学部内科学教室助教を経て、2011年から医療法人社団なかよし会日吉メディカルクリニック院長を務め、2013年に同会理事長に就任。「多くの医師との連携を躊躇せず、患者さんに真の医療を提供する」をモットーに医療に従事している。



麻布台西堀歯科(タワープラザ4階)

国際標準の歯の健康と美しさを追求し、アメリカの歯科界でもユニークな存在であるペンシルベニア大学歯周科、歯周補綴科のコンセプトを基礎として1971年に千駄ヶ谷院に開院。2003年に六本木ヒルズに開院、4院目として麻布台院が誕生します。開院から50年以上のノウハウを活かし、お子さまを含めたすべての年代の方に、疾病を引き起こさないための最新知識をお伝えし、治療のみならず、予防歯科にも力を入れています。

<医療法人社団歯周会: 理事長 西堀 雅一 医師>

日本と米国の歯周病専門医、指導医として長く臨床に従事。米国ペンシルベニア大では歯周科と歯周補綴科を専攻し、歯周治療のみならずインプラント、補綴治療を含めた包括的でバランスの取れた治療を行っている。六本木ヒルズでの20年にわたる診療を踏まえ、麻布台ヒルズでも、専門医と共に世界標準の治療を提供する。



<医療法人社団なかよし会 麻布台クリニック>

所在地 : タワープラザ4階
 施設面積 : 約560㎡(約170坪)

<医療法人社団歯周会 麻布台西堀歯科>

所在地 : タワープラザ4階
 施設面積 : 約250㎡(約75坪)

■施設概要:ブリティッシュ・スクール・イン 東京

「ブリティッシュ・スクール・イン 東京」 都心最大級のインターナショナルスクール

東京が熾烈な国際都市間競争を勝ち抜くためには、世界から企業や才能あるグローバルプレーヤーを惹きつける必要があります。そして、そのためには、外国人ビジネスワーカーやその家族の生活を支える生活環境の整備が不可欠です。その1つとして教育環境の充実が挙げられます。東京都心部におけるインターナショナルスクールの数は、他のアジア主要都市と比較して決して多いとは言えません。

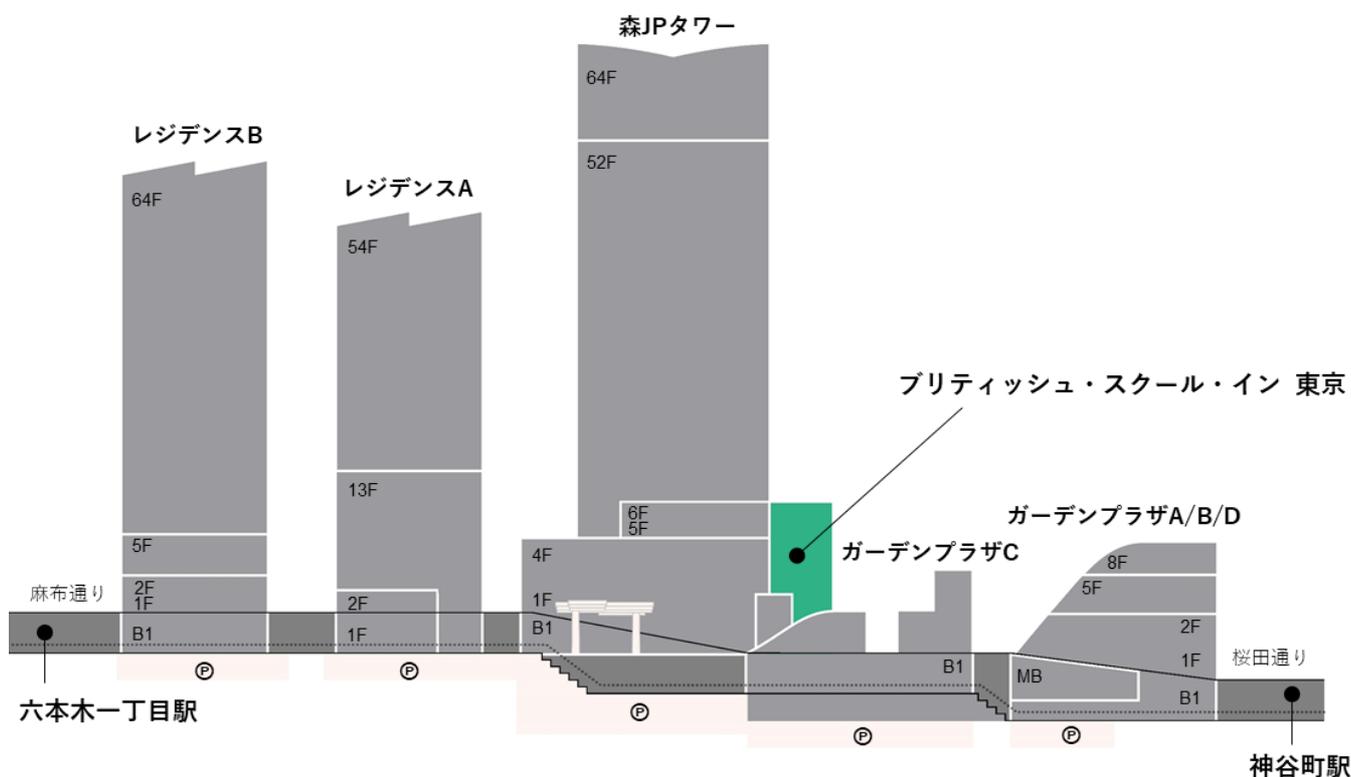
「麻布台ヒルズ」では、都心最大級の生徒数を誇るインターナショナルスクール「ブリティッシュ・スクール・イン 東京」が開校します。「都心にありながら、緑豊かな自然を感じられる環境の中で、子供たちがのびのびと学べる環境をつくりたい」という学校側の想いと森ビルのビジョンが合致し、実現しました。創立34年の歴史を有し、英国式の教育カリキュラムを提供する同校は、60ヵ国以上の国籍の生徒が在籍する、国際色豊かな学校です。麻布台ヒルズキャンパスには、幼児・初等教育科の約740人が通学。豊かな自然を感じられる環境の中、国際感覚に優れた、未来を担う子どもたちを育みます。



所在地 : インターナショナルスクール
地下1階～7階(森JPタワー)
校舎面積 : 約15,000㎡(約4,500坪)
生徒数 : 約740人(想定)
国籍 : 60ヵ国以上
施設 : 校庭約900㎡(約270坪)×2カ所
開校 : 2023年8月30日(予定)



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
スクール外観(イメージ)



世界トップクラスの施設を備え、児童の才能を開花させる学習空間

ツリーハウスをモチーフにした校舎は、ロンドンオリンピックの聖火台を手がけたことでも知られる世界的なデザイナー、トーマス・ヘザウィック氏による緑あふれる空間で彩られ、2つの図書館、アートスタジオ、2つの音楽室、科学・技術・工学・数学(STEM)学習のためのデジタルテクノロジースタジオ、校庭などが設けられています。また、スポーツ施設として、2つの校庭、体育館、屋内プール、ダンススタジオを設置。世界トップクラスの施設を備えることで、児童ひとりひとりの才能を開花させ、伸ばすことができる学習空間を提供します。



校庭



教室



体育館



屋内プール

麻布台ヒルズキャンパスで実現する「街全体が学びの場」

「ブリティッシュ・スクール・イン 東京」では、経験豊かな教師やスタッフが子どもたちの成長を献身的にサポートするとともに、成績優秀な児童がより高いレベルに挑戦できるなど、ひとりひとりの児童のニーズを満たすべく個別に対応しています。また、サッカー、音楽や美術、ガーデニングなど、100以上の課外活動やクラブ活動を行い、児童ひとりひとりの可能性を伸ばす教育を提供しています。

「麻布台ヒルズ」キャンパスの近隣にはオフィスビルや様々なショップ、レストラン、ホテル、アート、病院、そして多くの住宅地があります。「暮らす」「働く」「集う」「憩う」「学ぶ」「楽しむ」「遊ぶ」など、人々の様々な営みを身近に感じることで、「街全体が学びの場」となり、スクールの中だけでは学ぶことができない様々な体験を可能とし、子どもたちのさらなる成長の機会を創出します。



■施設概要:アート&ギャラリー

アート&ギャラリー 現代アートからエンターテインメントまで、多様な文化を世界に発信

森ビルは、「経済だけで文化がないような都市では、世界の人を惹きつけることはできない」との強い思いから、「文化」を都市づくりにおける最も重要な要素の1つと位置付けて、ヒルズごとに個性的な文化施設を創出し、ヒルズ内の各所にパブリックアートを設置してきました。ウェルネスへの意識が高まってきた今、文化やアートは人々の暮らしを心豊かなものにするものとして、ますます重要視されています。

「麻布台ヒルズ」では、「街全体がミュージアム」をテーマに掲げています。総施設面積約9,300㎡(約2,820坪)のデジタルアートミュージアムとギャラリーを中核として、オフィスや住宅、ホテルのロビーや広場など、街のあらゆる場所にパブリックアートを設置。芸術・文化が一体となった街を創出します。



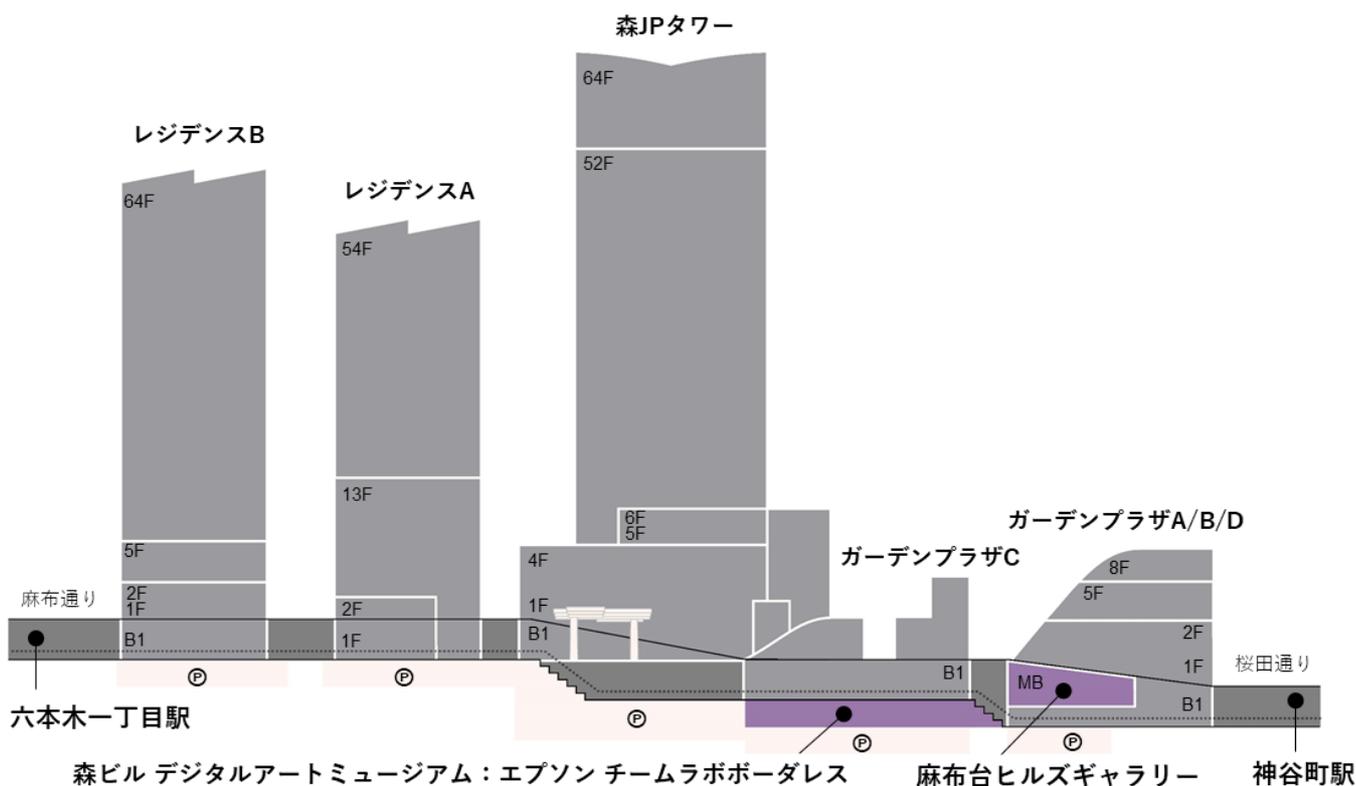
麻布台ヒルズギャラリー(展示イメージ)



©チームラボ

森ビル デジタルアートミュージアム:エプソン チームラボボーダレス

所在地 : ガーデンプラザA B1階～MB階、ガーデンプラザB B1階
アート&ギャラリー面積 : 約9,300㎡(約2,820坪)



「パブリックアート」 日常生活とアートの境界をなくす

都心に生まれる圧倒的な緑に包まれた広大な空間。その公共空間や生活環境にあるパブリックアートには、空間の壮大なスケール感とヒューマンスケールを融合し、人間と宇宙の繋がりを感じられ、「麻布台ヒルズ」で生成される自然界のエネルギーを可視化するような作品を森美術館のキュレーションにより選定しました。

また、手仕事の痕跡が残された作品の表情やさまざまな素材が五感を刺激し、人間本来の野性或芸術的感性が喚起されることも想像。さらには、「エプソン チームラボボーダレス」や「麻布台ヒルズギャラリー」など、「麻布台ヒルズ」の各アートスペースとも連動し、街全体でミュージアム・クオリティのアートを体験できるよう考慮しました。

世界の現代アート界を牽引するアーティストの豪華な共演をお楽しみいただけます。

森JPタワー

オラファー・エリアソン(デンマーク) 《相互に繋がりあう瞬間が協和する周期》2023年



オラファー・エリアソン
《相互に繋がりあう瞬間が協和する周期》
2023年

連続する4つの彫刻は、ひとつの点がねじれながら移動する軌跡を描いたものです。人々の行動、求心力、自由に動くダンスなど、あらゆるものの運動を表現しています。螺旋状の彫刻は、窓や柱など空間にあるそのほかの要素とも相互に関連しあいながら、調和しているように見えます。徐々に複雑になるこれらの形は、振動を表すリサージュ曲線に着想を得て、そこからダイナミックな立体に転換されました。

細部に目を向けると、菱形、扇型、三角形で構成される十一面体を多数連続させることで全体が形作られていることがわかります。スタジオ・オラファー・エリアソンが長年続けてきた幾何学的形体の研究や地質学的な時間に対する概念的な問いに基づき、本作では再生金属が初めて使われています。

中央広場

奈良美智(日本) 《東京の森の子》2023年



参考作品：奈良美智 《森の子》 2017年
展示風景：N's YARD (栃木)
撮影：森本美絵

目を閉じた《東京の森の子》は、アンテナを天高く伸ばし、宇宙と交信しているようにも、森の精として自然界の平安を祈っているようにも見えます。天空に向けて円錐状に立ち上がる本作は、2011年の東日本大震災の悲しみから、創造活動を再開する契機ともなった《ミス樫の子》(2012年)に続き、2016年以来、青森、那須塩原、ロサンゼルスなどに恒久設置されている《森の子》シリーズの8体目。都内に常設される奈良の野外彫刻としては初めてです。

粘土で作った原形をブロンズで鋳造し、ウレタン塗装を施した表面には、奈良の指跡が鮮やかに残り、作家の身体性や情動がリアルに伝わってきます。心の奥底に刻み込まれた記憶、感性、直感のままに制作されたこのシリーズには、奈良自身の葛藤、世界平和への願い、希望などが折り重なり、私たちの心の奥底に話しかけてくるようです。

曾根裕(日本) 《石器時代最後の夜》2017/2023年



参考作品：曾根裕 《Wood Log (long version)》 2017年

丸太や二股の切り株などさまざまな形をした彫刻は、讃岐産の凝灰岩でできています。高松市にある鷲ノ山は讃岐の中央にある山で、柱状節理と呼ばれる六角柱状の石が層を成しています。タイトルの《石器時代最後の夜》は、世界各地で石器時代の文明が青銅器時代へ移行した数千～数万年前には、人類が金属を熔解しても一日以内に固まってしまったらう、という仮説のもと、新しい時代の幕開けを前にした石器時代の最後の夜を想像したものです。

遙か昔の地殻変動によってできた石の時間、樹木が生長する時間、そして、石器時代を想って作家が石を削る時間。作品にはこれら複数の時間が融合していると、曾根は言います。そこには人類の発展、産業化や近代化といった時間も絡み合うでしょう。未来はいつの時代も不確定ですが、石で作られた丸太や切り株に座りながら、地球の歴史と未来の双方に思いを馳せてみてください。

ジャン・ワン(中国) 《Artificial Rock. No.109》2015年



参考画像
撮影：木奥恵三
Courtesy: 茨城県北芸術祭
KENPOKU ART 2016

ステンレススチールで自然石を模した彫刻は、中国の彫刻家ジャン・ワンの代表的なシリーズです。中国で天然岩を鑑賞する文化「供石」は唐の時代に遡ります。自然石を鑑賞する文化は日本では「水石」と呼ばれ、14世紀に中国から伝来したと言われています。供石で愛でられる自然岩は主に石灰岩で、自然現象によって溶解した形が風景にも喩えられてきました。

ジャン・ワンは急速な経済発展や産業化の只中にある中国で、多くの知識人や趣味人を魅了してきた自然岩が連想させる伝統的な風景を、自然を模して近代的な素材で再現しました。自然とその模造の意味を問い掛けながらも、鏡面に仕上げられた表面は麻布台ヒルズで移り変わる四季の風景、さらには天空を写し出し、過去と未来を繋げます。

「森ビル デジタルアート ミュージアム:エプソン チームラボボーダレス」 アート集団チームラボのアート群による、境界のない1つの世界

森ビルとチームラボが共同で手がけ、開館からわずか1年で、世界160以上の国・地域から、約230万人の動員を達成した「森ビル デジタルアート ミュージアム:エプソン チームラボボーダレス」(以下、エプソン チームラボボーダレス)が、2024年1月、東京・お台場から「麻布台ヒルズ」に移転オープンを予定しています。「麻布台ヒルズ」では、さらに進化した作品群も公開。新たな作品や日本未発表作品も多数加わります。

所在地	: ガーデンプラザB B1階
施設面積	: 約7,000㎡(約2,120坪)
プロジェクター	: 約560台
コンピューター	: 約610台
開館	: 2024年1月(予定)



「森ビル デジタルアート ミュージアム:エプソン チームラボボーダレス」
©チームラボ

<お台場「森ビル デジタルアート ミュージアム:エプソン チームラボボーダレス」の実績>

年間来館者数230万人、来館者の訪日外国人割合は約50%以上、そのうち約50%が当館を目的に来日

2018年6月にオープンした東京・お台場のエプソン チームラボボーダレスは、年間来館者数230万人を超え、そのうち訪日外国人割合は約50%に達しました。世界160以上の国と地域から来館し、訪日外国人の国・地域別割合は、1位アメリカ、2位オーストラリア、3位中国、4位タイ、5位カナダ、6位イギリスと、近隣諸国のみならず、遠方の国からの来館者が多いことが特徴です。また、当館が実施したアンケート調査によると、来館した外国人のうち約50%が当館を目的に東京を訪れたことが明らかになっています。

単一アート・グループとして世界で最も来館者が多い美術館として世界記録に認定

2019年1月1日～12月31日の来館者数において、計219万8284名を記録し、単一アート・グループとして世界で最も来館者が多い美術館「Most visited museum (single art group)」として、世界記録に認定されました(※1)。この来館者数は、世界のsingle-artist museums(単独のアーティストの美術館)の中で最も来館者数が多いと言われている3つの美術館の2019年の来館者数、オランダ・アムステルダムのごッホ美術館(213万4778人 ※2)、バルセロナのピカソ美術館(107万2887人 ※3)、スペイン・フィゲラスのダリ劇場美術館(81万9542人 ※3)を上回ります。

世界に類のないアートミュージアムとして、国内外から高い評価

米国の国際的なニュース雑誌、TIME誌の「世界で最も素晴らしい場所 2019年度版(World's Greatest Places 2019)」に選出されたほか、世界の最も優れた文化的施設に贈られるティア・アワード(Thea Awards)にて、日本国内施設では東京ディズニーシー、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンに続いて「優秀功績賞(Thea Awards for Outstanding Achievement)」を受賞するなど、国内外において権威ある賞を多数受賞してきました。

※1 来館者数世界記録認定に関するプレスリリース: <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000776.000007339.html>

※2 “Van Gogh Museum Annual Report 2019” Van Gogh Museum

※3 “THE ART NEWSPAPER SPECIAL REPORT Art’s Most Popular: Exhibition and museum visitor figures 2019” The Art Newspaper. Number 322, April 2020.

さらに進化を遂げた「チームラボボーダレス」

「チームラボボーダレス」は、アート集団チームラボの境界のないアート群による「地図のないミュージアム」です。境界のないアート群は、部屋から出て他の部屋へと移動し、他の作品とコミュニケーションし、影響を受け、作品同士が混ざり合います。

「チームラボボーダレス」は、そのような作品群によって、境界なく連続する1つの世界。来場者は境界のないアートに身体ごと没入し、「境界のない1つの世界の中で、さまよい、探索し、発見する」のです。

新たな作品群

「麻布台ヒルズ」の「エプソン チームラボボーダレス」では、新たな作品や日本未公開作品も多数加わります。以下の一部の作品に加えて、今後もさらに多くの新しい作品群を発表予定です。

《Microcosmoses (仮)》



数百個の光が走り続ける。異なった秩序による連続性が空間で重なりあう。

《Birth》「Light Sculpture」シリーズ



光の線の集合による、空間の再構成、立体物の構築。

《Sea of Clouds》「Light Sculpture」シリーズ



空間の中心には、光と霧による立体物が生まれる。

《The Sculpture of Time Distortion in a Mirror》 「Light Sculpture」シリーズ



円形の光の立体物は、ミラーにうつると、時間の流れが遅くなる。実体と鏡像では、時間が異なる彫刻である。

《Untitled》



境界のないアート群は、より進化し、より多くの場所へ移動し、複雑に関係し合い、永遠と変化し続ける。

■施設概要:アート&ギャラリー

「麻布台ヒルズギャラリー」 虎ノ門・麻布台エリアの文化発信の中核となるギャラリー

「街全体がミュージアム」をテーマとする、「麻布台ヒルズ」において文化発信の中核となる場所が、「麻布台ヒルズギャラリー」です。「麻布台ヒルズギャラリー」は、美術館仕様の施設・設備を備え、アート、ファッション、エンターテインメントなど、多様なジャンルの文化を発信します。

開館記念展として、環境問題にも積極的に取り組む先駆的アーティストであり、「麻布台ヒルズ」のパブリックアートも手掛けたオラファー・エリアソン氏による展覧会を予定しています。



麻布台ヒルズギャラリー(イメージ)

所在地	: ガーデンプラザA B1階～MB階 (B1階)麻布台ヒルズギャラリー カフェ / 麻布台ヒルズギャラリー スペース (MB階)麻布台ヒルズギャラリー
施設面積	: 約2,300㎡(約700坪)
展示面積	: 約700㎡(約210坪)
開館	: 2023年11月24日(予定)

麻布台ヒルズギャラリー カフェ / 麻布台ヒルズギャラリー スペース

「麻布台ヒルズギャラリー」の関連施設として、アート鑑賞の前後に立ち寄れるカフェおよびスペースをオープンします。「麻布台ヒルズギャラリー カフェ」は、展覧会やイベントとコラボレーションした特別なカフェとして営業するほか、神谷町駅前のカウンターではテイクアウトのドリンクを提供します。

また、「麻布台ヒルズギャラリー スペース」ではポップアップショップ等の開催も予定しています。



麻布台ヒルズギャラリー カフェ(イメージ)



麻布台ヒルズギャラリー スペース(イメージ)

開館記念展「オラファー・エリアソン展:相互に繋がらう瞬間が協和する周期」

「麻布台ヒルズギャラリー」では、2023年11月24日(金)から2024年3月31日(日)まで、開館記念展として「オラファー・エリアソン展:相互に繋がらう瞬間が協和する周期」を開催します。

アイスランド系デンマーク人であるオラファー・エリアソンは、私たちを取り巻く世界との関わり方に疑問を投げかけ、再考をうながす作品で知られ、近年は気候変動などの社会的課題への積極的な取り組みでも世界的に注目されているアーティストです。エリアソンの作品は、知覚、身体化された体験、エコロジーへの関心を原動力とし、自然現象やその要素である色彩、光、動きを用いて、鑑賞者を新たな知覚体験へ誘います。人間と自然環境との間に生じるもつれに焦点を当て、未来を形作る上で私たちが共有する責任について問いかけています。美術館やギャラリーの枠を超えるエリアソンの実践は、インスタレーション、絵画、彫刻、写真のほか、建築、公共空間との関わり、美術教育、政策立案、気候変動対策など多岐にわたります。



オラファー・エリアソン《蛍の生物圏(マグマの流星)》 2023年
撮影: Jens Ziehe
© 2023 Olafur Eliasson



オラファー・エリアソン
撮影: Lars Borges

<オラファー・エリアソン>

1967年生まれ、アイスランドとデンマークで育つ。現在は、コペンハーゲンとベルリンを拠点としている。1995年にベルリンに移住し、スタジオ・オラファー・エリアソンを設立。現在は、職人や建築家、アーキビスト、研究者、管財人、料理人、プログラマー、美術史家、専門技術者からなる大規模なチームによって構成されている。1997年以来、インスタレーション、絵画、彫刻、写真、映像など、幅広いジャンルの作品を発表、世界の主要美術館で個展を開催。2019年には国連開発計画による再生可能エネルギーと気候変動対策の親善大使に任命される。

■施設概要:アート&ギャラリー

その他のアート&ギャラリー店舗

「麻布台ヒルズギャラリー」や「森ビル デジタルアート ミュージアム:エプソン チームラボボーダレス」、街中のパブリックアートに加えて、さまざまな文化発信に携わるテナントが揃いました。

個性豊かなテナントが軒を連ね、領域を超えて交流することで、「麻布台ヒルズ」から多様な文化を発信します。

集英社「集英社マンガアートヘリテージ」

初リアル店舗

尾田栄一郎『ONE PIECE』、久保帯人『BLEACH』、池田理代子『ベルサイユのばら』など、マンガを受け継がれていくべきアートに。出版社である集英社が手がける「マンガアート」ギャラリーであり、2021年よりウェブサイトのみで展開していた「集英社マンガアートヘリテージ」が、常設のギャラリーとして、初めてリアル店舗として出店します。現在考える最良のマテリアルと技術を使い、マンガ家と版元が監修する、妥協のないアートプリントを制作。

限られたエディションで販売する作品はNFTブロックチェーンで保証し、来歴を記録するという新たな試みも実施します。



The Chain Museum

「ギャラリーレストラン舞台裏」

オンライン上でアーティストと鑑賞者が出会う場を提供してきた、The Chain Museumが手掛けるリアル店舗「ギャラリーレストラン舞台裏」。

展示スペースの裏側に回り込むと、そこにはシェフのいるキッチンがあり、冷えた白ワインと気楽な前菜、本格的なコース料理まで楽しめます。美術館に所蔵されるようなベテランのアーティストから、グローバルなマーケットで熱い視線を集める話題のアーティストまで、ときには演劇やダンスのようなパフォーマンスも。ここはアートを鑑賞したあとにビールやワインを片手に語り合う、そんな人が主役のギャラリーでありレストランです。



「商業施設」 新しい体験や楽しさを提供し、都市生活を豊かにする

「Green&Wellness」という街全体のテーマに沿い、都心の真ん中にありながらも、圧倒的な緑に包まれた環境の中に、ファッション、フード、ビューティー、カルチャー、アート、ウェルネスなど、約150店舗が集結。暮らす、働く、訪れる、全ての方に買い物だけではなく、新たな体験価値を享受できる豊かなライフスタイルを提案します。

また、中央広場の地下には、約4,000㎡の広さを誇る大規模なフードマーケット「麻布台ヒルズ マーケット」が誕生。厳選された食材や、東京の豊かな食文化、美味しく健康的なライフスタイルの提案を通じて、食の本質的な豊かさや楽しさを提供していきます。さらに、マーケットに出店する専門店とともに商店会をつくり、他施設やプロジェクトとも協業してラボ活動を行うことで、学びや体験・コミュニケーションを通じたウェルネスで豊かな暮らしの創出に貢献します。

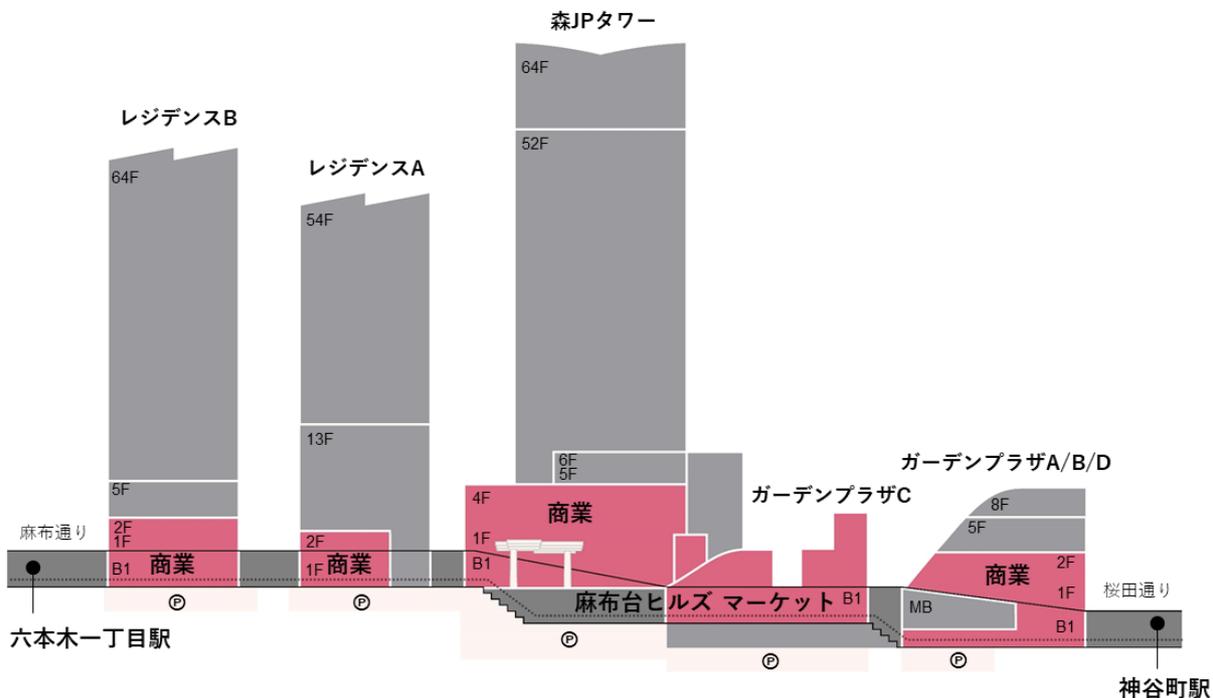
商業施設面積	： 約23,000㎡(約7,000坪)
店舗数	： 約150店
所在地	： 森JPタワー B1階～4階 レジデンスA 1階～2階、レジデンスB B1階～2階 ガーデンプラザA B1階～3階、ガーデンプラザB B1階～2階 ガーデンプラザC B1階～2階、ガーデンプラザD B1階～2階



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
ガーデンプラザ(イメージ)



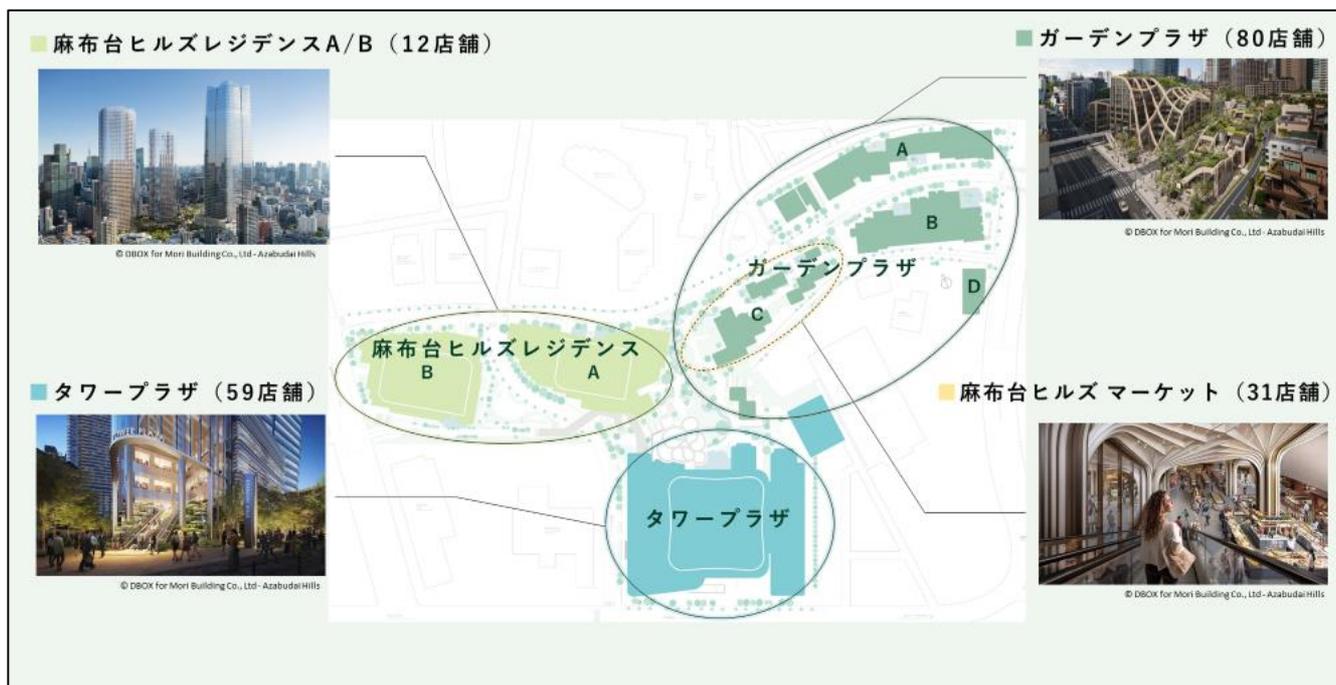
© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
麻布台ヒルズ マーケット(イメージ)



新たな体験価値を享受できる、豊かなライフスタイルを提案する商業ゾーン

「麻布台ヒルズ」では、圧倒的な緑に包まれた中に、店舗面積約23,000㎡の大規模な商業ゾーンが広がります。「森JPタワー」内の「タワープラザ」には、ファッション&ライフスタイルのショップや様々なジャンルの飲食店が集結。低層部の「ガーデンプラザ」には、ラグジュアリーブランドや開放感あふれるテラス付きのカフェ、日本トップクラスのハイエンドなレストランなどが集まり、街全体で約150店舗となる新たな商業施設が誕生します。

ここでは、ただ買い物や食事を楽しむだけではなく、時間や体験を豊かにしたり、ショッピングや食を通じて街と人々の新しい関係性をつくっていきます。



■ ガーデンプラザ(80店舗)

緑豊かな環境の中、トップクラスのラグジュアリーブランドやレストランが軒を連ねる、他にはないラグジュアリーストリートが東京に誕生。

心身のウェルネスの提案を行うビューティーゾーンや、カジュアルながら高品質で個性あふれるレストラン・カフェ・スイーツの名店が集まるエリア。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

B1階(51店舗)

神谷町駅と地下で直結し、街の玄関口となる当エリアには、カジュアルながら高品質な個性溢れるレストラン、フレッシュな素材をその場で楽しめるカフェ・スイーツ専門店の名店が集積します。

「麻布台ヒルズギャラリー」に向かう動線上にはアート&デザインゾーンとしてマンガアートギャラリーやギャラリーレストランなどが出店します。(P.27参照)

1階(路面・ストリートレベル) (14店舗)

桜麻通りから中央広場にかけて、緑豊かな環境の中でトップクラスのラグジュアリーブランドが集積する、他にはないラグジュアリーストリートが新たに誕生します。八幡通りや桜田通り沿いには、日本が世界に誇る、寿司、日本料理、天ぷらのトップクラスのレストランや、スイーツ、日本初進出となるレストランなどが集積します。

2階(15店舗)

心身のウェルネス提案を行うビューティーゾーン、フレンチ、鉄板焼を代表するトップクラスレストラン、ヴィーガン、ビーン・トゥ・バーなどの先駆者が手掛けるカフェ・スイーツ専門店など、多様な「食」を提案します。

■ **タワープラザ(59店舗)**

ライフスタイル、ファッション、飲食、ウェルネスまで、ワンストップで楽しめる、約11,500㎡(約3,300坪)の広さを誇る「森JPタワー」低層部の店舗集積ゾーン。

B1階/1階(7店舗)

中央広場に近接する当ゾーンには、テイクアウト商品も充実したカフェやレストラン、フラワーショップ、中央広場と連携するイベント対応型カフェなどが出店します。外苑東通り側には、カーブランドの世界観を体感できる様々なコンテンツが網羅されたコミュニティハブとなるブランドストアが出店します。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

2階(14店舗)

都心生活者のニーズに応え、ファッション・スポーツなどを中心とした店舗が集積します。オリジナリティのある商品、サービス提案、様々なPOPUP提案など、体験を重視した新たな高感度ファッションフロアです。

3階(23店舗)

インテリアやライフスタイル雑貨の他、グリーン、ファッション、フードなど様々なジャンルで構成される大型ライフスタイルショップが出店します。レストランゾーンには20店舗のレストランが集積。各カテゴリーで名を馳せた「最高品質の日常」や「豊かな食」を提供するレストランが、地域の方々に長く愛される「街のメインダイニング」となります。

4階(15店舗)

大型書店を中心にライフスタイル提案型の専門店、日本初進出のヴィーガンレストランなどが集積し、日常生活に知性と潤いを提供します。その他、5・6階の「予防医療センター」と連携するクリニックや歯科、パーソナルトレーニングジムや鍼灸マッサージなど、街のコンセプトである「ウェルネス」を体現する施設が揃います。

■ **麻布台ヒルズレジデンスA・B(12店舗)**

ホテルへと続く上質な空間に相応しいジュエリー、フレグランスショップやレストランのほか、居住者や近隣にお住まいの方々の高品質な日常を支える店舗が集積するエリア。

レジデンスA(4店舗)

「ジャヌ東京」のエントランスと直結した上質な空間に、日本を代表するジュエリーブランドやイタリア発のフレグランスショップが並び、路面ゾーンにはトップクラスのイタリアンレストランや居住者・近隣にお住まいの方々のニーズに応えるドッグサロンなどが出店します。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

レジデンスB(8店舗)

上質な服や靴などのお直しやクリーニングなど、一流の職人たちが対応する総合メンテナンスサロンのほか、託児施設やコンビニ、ドラッグストアなど、日常生活をサポートする店舗が集積します。

■ **麻布台ヒルズ マーケット(31店舗)**

中央広場の地下に誕生する日本を代表する専門店が集積したマーケット。

食の本質的な楽しさや豊かさを提供するマーケットが誕生します。生鮮三品から惣菜、グロッサリー、ワイン・リカー、ベーカリー、スイーツ、フラワーなどの日本を代表する専門店が集積し、希少な食材や、国内外の四季折々の食材、半調理品や質の高い加工品、さらには、こだわりの専門店の惣菜、出来立てのバイオーダー品などを取り揃え、日々の食卓を彩ります。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

■ラグジュアリーブランド(ガーデンプラザ・路面店 ※2024年2月～OPEN予定)

都心の真ん中にありながら圧倒的な緑に包まれた環境の中に、トップクラスのラグジュアリーブランドが軒を連ねる、他にはないラグジュアリーストリートが新たに誕生します。

ヘザウィック氏デザインによる低層部の美しい街並みには、街のコンセプトに共感頂いた10ブランドが集積。それぞれのブランドがひとりひとりのお客様と向き合い、新たな体験や特別感の提供を目指します。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills


HERMÈS
PARIS

Officine Universelle Buly
FONDÉE EN 1803
PARIS

LES PLUS HAUTES RECONNAISSANCES
DES ÉTATS EUROPÉENS
À TOUTES LES
EXPOSITIONS

Cartier

ST LOUIS

CELINE

TIMEVALLÉE
HERITAGE AND BEYOND

DIOR

BVLGARI

1895
BERLUTI
PARIS

BOTTEGA VENETA

■ トップクラスレストラン(ガーデンプラザ 1階~2階、レジデンスA 1階~2階)

「食」は、この街のウェルネスの基盤となるものです。「麻布台ヒルズ」では、健康・ウェルネス・サステナビリティなどの課題に、食を通じてアプローチしていきます。

この想いに賛同した、日本が世界に誇る各ジャンルトップクラスのレストランが集積。「麻布台ヒルズ」は、日本・東京を代表する「美食」の拠点になります。各店の料理人の方々は自らのクオリティを極めると同時に、ここで新たなチャレンジをし、世界に向けて発信していきます。

神楽坂 鉄板焼 中むら

ガーデンプラザA

2011年神楽坂にて開業し、神戸牛をはじめとした安全で美味しい最高級の和牛と天然で旬の最高級食材を、素材本来の良さを最も引き出せる方法にて提供している「神楽坂 鉄板焼 中むら」。移転後は新たに炉窯・炭焼き台による料理もお楽しみいただけます。



鉄板焼
中むら
神楽坂

寺子屋すし匠

ガーデンプラザB

調理の技術だけではなく日本の文化や伝統を学びながら総合的な「職人」を育てる鮨職人「すし匠」の中澤圭二氏の元で16年間修行した杉木辰茂氏が、「麻布台ヒルズ」のつけ場に立ち、提供します。



すし匠

天風良 にい留

ガーデンプラザD

天ぷら業界を牽引する新留修司氏が手掛ける名店「天風良 にい留」が東京に移転。「生きている衣」を纏った天ぷらは、ここでしか味わう事ができない逸品。日本の文化である「天ぷら」が素材の香り、味、水分を最大限に活かせるものである事を麻布台から世界に発信していきます。



天風良
にい留

富小路やま岸

ガーデンプラザB

懐石料理の名店「富小路やま岸」の東京分店。京料理の伝統を守りながら、茶懐石のおもてなしの精神を基本に、四季の移り変わりをじっくりと感じていただけるお料理を提供します。



富小路
やま岸

フロリレージュ

ガーデンプラザD

ミシュラン二つ星、ミシュラングリーンスター、The World's 50 Best Restaurants他、名だたる賞を獲得する川手寛康氏が手がけるフレンチガストロノミーが外苑前から移転。プラントベースという野菜を中心とした料理の価値を追求し、更に進化した食のサステナビリティに取り組みます。

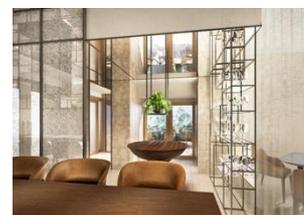


Florilège

ル・サロン・プリベ/サティネ

ガーデンプラザA

The New York Times「Best of New York」、Asia's 50 Best Restaurants「Best Pastry Chef」、ゴ・エ・ミョ「ベストパティシエ賞」等、世界で評価をされてきた成田一世氏の待望の店舗が「麻布台ヒルズ」にオープン。



■施設概要:商業施設 <各カテゴリー店舗一例>

aca° (仮称)

ガーデンプラザA

オーナーシェフの東鉄雄氏がスペイン料理をコースで楽しんでもらいたいと2013年に京都に「aca°」をオープンし2017年から4年連続ミシュラン一つ星を獲得、2020年東京日本橋へ移転後も予約困難が続く人気のスペイン料理店です。「麻布台ヒルズ」ではシェフの手仕事を堪能できるカウンター席と心地よいテラス席をご用意し、カジュアルながらも洗練されたスペイン料理をお楽しみいただけます。



デプスブリアンツァ

レジデンスA

これまでのブリアンツァグループの集大成として、オーナーシェフ奥野義幸氏の技術が最大限に発揮できるレストラン。旬食材を使った魅力あふれるメニューはもとより、時代感に合った地産地消や無添加食材を取り入れる等、常にお客様の声に耳を傾けながら柔軟且つ迅速に進化し続けるイタリアンを提供します。



DepTH
brianza

■メインダイニング (タワープラザ3階)

幅広いジャンルで「最高品質の日常」や「豊かな食」を提供し、居住者やワーカーに長く愛されて、来街者の目的地にもなる“東京の食”を体感できるレストランが揃います。グリーンを感じられる開放的なテラスや、ゆったりと落ち着いた個室など、シーンに応じて使い分けができる“街のメインダイニング”です。

サーワーンビストロ

タワープラザ

オープンからわずか7か月でミシュラン一つ星となったバンコクを代表するモダン・タイ・レストラン「SAAWAAN」。タイのベストシェフにも輝いたシェフ「EARTH」と、世界女性パティシエチャンピオンシップ大会にタイ人として初めて招聘されたパティシエ「PAPER」が織りなす本場のお料理をより気軽なビストロスタイルで、象徴的なバーカウンターを備えた空間でお楽しみいただけます。



SAAWAAN

バルコニー バイ シックス

タワープラザ

一日中賑わい溢れるモダン・クラシックなオールデイレストラン。居心地の良いオープンエアのバルコニーやそこから連続する洗練された店内では、いつの時代も食べたい定番料理から世界各国の食材や調理法を用いて編集した多国籍な料理を、ホスピタリティ溢れるサービスと共に提供します。



Balcony
BY 6TH

ラシーヌ

タワープラザ

グリップセカンドが手掛ける池袋の人気ビストロ「RACINES」の旗艦店。全国60以上の生産者が丁寧に育てる食材を中心に、色鮮やかでヘルシーかつボリュームのあるメニューを提供いたします。ランチやディナーはもちろん、カフェタイムはティールームとして営業します。



RACINES



リストピッツァ バイ ナポリスタカ

タワープラザ

「NAPOLI STA CA」オーナーピッツァイオーロ ペッペ氏プロデュースの、リストランテとピッツェリアが融合したイタリアンレストラン。日本はもちろん世界中から選りすぐった旬の食材でつくられる一皿一皿に、愛と情熱を注ぎます。



Risto
Pizza
BY NAPOLI STA CA

■ スイーツ&カフェ(ガーデンプラザ B1階~2階)

日本を代表する銘店や確かな技と味に裏付けされた人気店舗をラインナップ。出来立てやフレッシュな素材を店内やテイクアウトで楽しめる、厳選されたカフェ&ショップが幅広く揃います。スイーツやドリンクとともに豊かなひとときを過ごせるほか、大切な方へのおもたせやお土産にも最適な商品も充実しています。

アラビカ東京 B1

ガーデンプラザB

「京都から世界へ」をスローガンに、日本人の味覚、ミニマルなデザイン、勤勉性で世界で勝負をかける「アラビカ」。コーヒー豆はオーナー自身が世界のコーヒー産地を訪問・厳選し、世界最高峰のエスプレッソマシン、スレイヤーで抽出。店舗には焙煎機を保有し、お客様一人一人に対して、バリスタが最適な豆と焙煎具合を推薦し、カスタム焙煎を行います。



% ARABICA®
SEE THE WORLD THROUGH COFFEE

エシレ・ラトリエ デュ ブール

ガーデンプラザB

フランス産A.O.P.認定発酵バター「エシレ」が贈る”バターのアトリエ”。エシレ専門店の中で最大規模を誇り、ここにしかないオリジナルのお菓子やヴィエノズリを販売します。”バターのアトリエ”とは、エシレ バターのおいしさを極限まで引きだした、こだわりのあるものを作り上げる場。焼きあがりの音や香りを感じながら、ゆったりとした空間でお買い物を堪能いただけます。



ÉCHIRÉ
L'Atelier du Beurre

鈴懸

ガーデンプラザB

博多に本店を構える創業百年の和菓子の老舗で行列必至の銘店「鈴懸」。「現代の名工」に章された初代中岡三郎氏の教えにもとづき、厳選した素材に由来する味と技を極め、進取の試みを織りまぜて和菓子の世界を広げています。麻布台ヒルズ店は関東唯一の路面店で洗練された鈴懸らしい空間を存分にお楽しみいただけます。



鈴懸

日本橋 千疋屋総本店

ガーデンプラザB

天保5年(1834年)創業の「千疋屋総本店」が手掛ける、新たな美食体験が楽しめる次世代のフルーツパーラー。美しくフルーツが並ぶショーケースと特別感を演出するカウンターが象徴的な店内で、日本橋本店のグランドメニューをより華やかなスタイルでご提供するほか、様々なオリジナルメニューをはじめ、フルーツの美味しさを最大限に活かしたギフトも展開します。



NIHOMBASHI
千疋屋総本店
TOKYO 1834

中村藤吉麻布台

ガーデンプラザB

1854年に日本を代表する茶所である京都宇治に生まれた茶商「中村藤吉本店」が手掛けるテイクアウト主体の新業態。日本茶各種を様々な飲み方・アレンジで堪能できるだけでなく、人気の生茶ゼリイを使ったデザートドリンクなど「麻布台ヒルズ」限定のメニューも多数提供し、ほとんどの商品を気軽にテイクアウトすることができます。



銘 中
茶 村
中村藤吉麻布台店
NAKAMURA TORIKI AZABUDAI

ミニマル ザ スペシャルティ

ガーデンプラザA

Bean to Barスタイルのスペシャルティチョコレートの専門店「Minimal」のシグニチャースイーツが揃います。チョコレートやガトーショコラの最上級の食べ比べ体験や、「新政酒造」の日本酒、「The World's 50 Best Discovery」に選ばれた「とおの屋 要」のどぶろく、スペシャルティコーヒーなどの最高品質の飲み物とのペアリングなど“新しいチョコレート体験”をお届けします。



Minimal
Bean to Bar Chocolate

■ ライフスタイル(タワープラザ B1階~4階)

「衣・食・住」をトータルで提案する新しい大型ライフスタイルショップや、書籍を中心に様々な文化を発信する大型書店、心身のウェルネスをサポートするトレーニングジムやミュージアムのようなフラワーショップなど、都心生活を豊かにするライフスタイルショップをキュレーションし、様々なお客様のライフスタイルニーズに応えワンストップショッピングを実現します。

大垣書店

タワープラザ

京都を中心に、様々な文化を発信し続けている「大垣書店」が、東京へ初進出。「本と人とをつなぐ書店」をコンセプトに、一冊一冊丁寧に選び抜かれたこだわりの書籍が揃います。約1,000㎡の店内にはカフェ・アートゾーンを併設し、読書をゆっくりと楽しめる居心地の良い滞在空間で、大切な一冊に出会える体験を提供します。



ザ・コンランショップ 東京

タワープラザ

英国を代表するデザイナーのひとりである、テレンス・コンラン卿によって1973年にロンドンで始まった、世界中から厳選した家具や照明、インテリア小物を取り揃えるホームファニッシングショップ「THE CONRAN SHOP」。約1,330㎡の広々とした店内でインスピレーションの源や新しい発見のあるアイテムとスタイリングを通し、日々の生活をより豊かに楽しむことを提案します。



Deportare Club(デポルタークラブ)

タワープラザ

「Deportare Club」はトップアスリートをはじめ各界で活躍されている方の健康増進に携わり、長年、お客様の心身の健康をサポートしてきた会員制パーソナルトレーニングジムです。確かな実績とノウハウを生活かし、人と人との繋がりやコミュニティを創造。お客様同士が互いに高め合える最良の環境を提供します。



**ニコライ バークマン
フラワーズ & デザイン**

タワープラザ

スκανジナビアスタイルを活かしながらヨーロッパのデザイン性と日本の細部にこだわる感性が融合した独自のフラワーデザインを展開する「ニコライバークマン」。麻布台ヒルズでは、まるでフラワーミュージアムのような空間で「ニコライバークマン」の世界を堪能いただけます。



■ ビューティーショップ・サロン(ガーデンプラザ2階)

都心で暮らすお客様のニーズを満たす、専門性の高い人気のビューティーショップを集積。製品やサービスに誠実なスキンケア・ヘアケア・フレグランスブランドやサロンが揃い、緑豊かな街並みの中で最高のリラックス空間を提供します。

カキモアームズ

ガーデンプラザB

ヘアカラーリングを中心に、ネイル、ヘッドスパ、眉毛・まつ毛、自宅でのヘアケアアドバイスなど専門分野のスペシャリストによるフルセクション型のトータルビューティーサロンにメンズ専用ヘアサロンも併設。またプライベートルーム3部屋をご用意し、どなたでも安心してリラックスできる環境を創出いたします。



フエギア 1833 麻布台

ガーデンプラザB

2010年ブエノスアイレスでジュリアン・ベデルにより創業。世界的な香水の分野に独自の概念をもち、果てなく広がる南米の広大な土地、歴史、芸術、音楽、自然、文化にインスピレーションを得てつくられた、唯一無二のコレクションをご体感いただけます。



■ファッション(タワープラザ B1階~4階、レジデンスA 1階)

高感度な都心生活者のニーズを満たす様々なファッションアイテムが揃うセレクトショップや専門店、日本を代表するジュエリーブランドなども幅広く取り揃え、最旬のファッションとトレンドを体感できるショップを集積しました。

メゾン エ ヴォヤージュ

タワープラザ

トゥモローランドが手掛ける、コンセプトショップ「MAISON et VOYAGE」が初出店。遊び心ある紳士の嗜みと旅がテーマ。心を映し出す1枚の美しいシャツ、着る人の瞬間を輝かせるオーダースーツ、共に旅を続けるシューズ、世界に一つだけのヴィンテージアイテムなどオリジナルブランドをはじめ、世界中で出会った唯一無二のウェア・グッズを展開します。



ユナイテッドアローズ ウィメンズストア

タワープラザ

物質的な豊かさだけでなく、内面の美しさや健康、ライフスタイルに寄り添う「ユナイテッドアローズ」のニューラグジュアリーストア。永く愛せる永遠のスタンダード、ファッションの楽しさを感じるおきのアイテム、ウェルネスライフをサポートする厳選した商品を展開。ファッション・スタイルに関するご相談、お客様にとってお困りのことに寄り添いながら、今、そして未来の私たちに必要と感じるものを提案します。



ル グランド クローゼット ドゥ パリゴ

タワープラザ

厳選した300以上のブランドを揃えるセレクトショップ「パリゴ」。新業態となる麻布台ヒルズ店は「エイジレスにファッションを愉しむセレクトイブクローゼット」。クローゼットの扉を開けると、そこには世界的なハイブランドやデザイナーズブランドの逸品が。パリの洗練された美意識の宿る心地良いリユクスな空間で、選ぶ楽しみ、纏う喜びを体感できます。



ルフィル

タワープラザ

自然に寄り添い、心豊かな生活を尊び、しなやかに女性らしくありたい大人の女性に向けたブランド。クリーン、快適、かつクチュール的で美しいことを大切にしたいオリジナルウェアと、国内外のデザイナーズブランドをラインナップ。服に纏わるストレスを解消し、心豊かな時間を感じていただけるサービス・イベントを提供します。麻布台ヒルズ限定のカシミアやゴルフウェアなどカプセルコレクションも展開。



LE PHIL

ルルレモン

タワープラザ

カナダ・バンクーバーで創業したアスレティックウェアブランド。革新的で機能美あふれるトレーニングウェアを取り扱うだけでなく、お客様と一緒に汗を流すことでコミュニティとの絆を深めてきた「lululemon」では、「麻布台ヒルズ」のコンセプトと共鳴しながら、より一層お客様一人一人のウェルビーイングをサポートします。



 lululemon

ミオ ハルタカ

レジデンスA

美しい風景や音楽、花、昆虫、動物など自然界の生命からインスピレーションを得たデザインに、ダイヤモンドやサファイアといったラグジュアリーな天然貴石を組み合わせたジュエリー「MIO HARUTAKA」の世界で唯一の直営店。内装デザインは「新素材研究所」が担当。生命と幾何学をテーマに、有機的なデザインを美しく際立たせる空間で「MIO HARUTAKA」の世界観をお楽しみいただけます。



MIO HARUTAKA

■施設概要：麻布台ヒルズ マーケット

「麻布台ヒルズ マーケット」 食の本質的な楽しさや豊かさを提供

中央広場の地下には、店舗面積4,000㎡を誇る「麻布台ヒルズ マーケット」が誕生します。

「食」を通じて日々の暮らしを、東京の都市生活をもっと豊かにしたいという思いから、「Green&Wellness」な街の中心地に、「麻布台ヒルズ マーケット」をつくりました。

日本の食文化を守り、さらに発展させていく

「食」は世界に誇れる日本の文化です。多様な自然と地形が生み出す四季折々の食材を、その持ち味を生かす様々な調理法と、器や盛り付けで、変化を楽しみながら発展してきました。さらには、世界各国の料理でさえ日本オリジナルの料理に変えてきたという深さと広がりがあります。このように、特別な「食」から家庭の「食」までバリエーション豊富な日本の「食」は、どれも美味しく、健康的で栄養バランスに優れています。毎日の暮らしをより豊かで楽しくするために、自然や季節と密接に関わり、各国の食文化とも融合しながら発展してきた、世界中の人が楽しめるグローバルな食文化です。

世界に誇れる次世代型マーケットを創る

この食文化をさらに発展させたいとの思いのもと、日本を代表する31の専門店が集まりました。コンセプトは「世界に誇れる次世代型マーケットを創る」です。

本当に美味しい食べものを提供していくのはもちろん、食べ方や楽しみ方も伝えていくこと、そして、「食」を通じて日々の暮らしの豊かさや心身の健康、持続可能な社会へと繋げていくこと。それこそがこれからの時代に求められるマーケットのあり方であり、「麻布台ヒルズ マーケット」がチャレンジしたいことです。住む人、働く人、訪れる人、大人から子供まで、そして、あらゆる国籍の人々が食を通じた豊かさを実感できる、そんなマーケットを目指します。

食を通して暮らしと未来を豊かにする

広々とした地下の空間には、生鮮三品から惣菜、グロッサリー、ワイン・リカー、ベーカリー、スイーツ、フラワーなどの専門店が並び、名店にしか流通しない希少な食材や、国内外から集まる四季折々の食材、素材だけでなく半調理品、質の高い加工品、日々の食卓を彩る惣菜や出来立ての美味しさを提供するバイオーダー品などが並びます。また、一部店舗では、名店の味をイトインでも楽しんでいただけます。さらに、本物の美味しさや食べ方を伝える情報発信・食育に、専門店とワンチームで取り組んでいきます。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

麻布台ヒルズ マーケット(イメージ)

所在地 : ガーデンプラザC B1階～1階
施設面積 : 約4,000㎡(約1,200坪)
店舗数 : 31店
※2024年1月のオープンを予定(一部先行オープン店舗有り)

生鮮

四季があり、海・山・川・里などの多様な自然が広がる日本ならではの食材を中心に、各カテゴリのプロフェッショナルがその時期に一番美味しいモノを厳選して展開する生鮮ゾーン。素材の味わいを活かした半調理品や、日常的に食べたいシンプルで身体に優しい惣菜なども取り揃え、豊かな食文化を提案します。

麻布台 やま幸鮮魚店

豊洲市場を代表する仲卸「やま幸」が、日本の食文化の豊かさと本当に美味しい魚をご家庭の食卓にもお届けするため、鮮魚小売店をオープンします。

世界一と称されるマグロを筆頭に、四季で移り変わる旬魚や、魚本来の美味しさを引き出して調理した惣菜まで幅広くラインナップ。四季折々の海の幸を堪能いただけます。



根津 松本 麻布台

東京・根津に本店を構え、「納得した魚しか売らない」こだわりの鮮魚店。店主の松本秀樹氏が厳選する最高峰の魚は、「最高の、そのまた上」を意味する「一の線」の魚のみ。素材を見極め、最適な手当を施す徹底したこだわりで、日本全国から魚好きたちが訪れます。これまでは料亭や鮨店にだけ卸されていた極上の旨い魚を、ご家庭にお届けします。



精肉 日山

1912年、日本橋人形町で創業してから100年以上の歴史を持つ精肉店。熟練の目利きが芝浦市場内で直接買付けた肉は、直営店のみならず名だたる飲食店などへも卸されています。「精肉 日山」では対面販売にこだわり、お客様の献立に合わせた肉をご提案。和牛のおいしさを世界に伝えたいとの想いで、新しい食べ方の提案や、コロッケ・メンチなどの惣菜も新たに展開します。



京都 八百一

京都に本店を構える「京都 八百一」。全国から集まる旬の野菜や果物とともに、自社農場で丁寧に育てられた新鮮な青果を取り揃えます。

時間のない方々にも本当に美味しい物を食べてもらうため、下ごしらえ済みの半調理野菜「クック1/2」や、毎日食べても飽きのこない優しい味付けの惣菜まで、日々の食卓を健康で豊かにします。



■施設概要:麻布台ヒルズ マーケット

惣菜

各カテゴリを代表する超人気店舗やミシュラン店舗が手掛ける惣菜専門店が幅広くラインナップ。お店の定番の味から、ここにしかない特別な商品まで、レストランクオリティの味をご家庭で楽しめます。お客様の注文を受けてから調理するバイオーダー商品や、好みで選べるカスタマイズ商品も揃い、出来立て、つくりたての味が楽しめます。

麻布台 鳥しき

予約の取りづらい焼き鳥店として名を馳せる東京・目黒「鳥しき」の味を手軽にお楽しみいただけます。可能な限り限界まで炭火に近づける「近火の強火」の技を用いて、目黒本店の味を限りなく再現した焼き鳥や、秘伝の「壺だれ」をベースにしたお惣菜のラインナップをご用意します。



パーラー矢澤

最高級黒毛和牛ハンバーグが人気の「ミート矢澤」や、「焼肉ジャンボ白金」、「とんかつ あげ福」といった繁盛店を手掛ける黒毛和牛卸「ヤザワミート」の美味なる惣菜が一堂に介したのが、「パーラー矢澤」です。できたてのハンバーグや揚げ物、シャルキュトリーなどを販売し、イートインではハンバーグ、ソーセージ、エビフライののった「大人のお子様ランチ」も提供します。



グロッサリー

定番品から嗜好品まで、トップクオリティのグロッサリーが揃います。日々の食をアップグレードする米と出汁の専門店、日本を代表するシャルキュトリー、世界のトップクラスソムリエがセレクトするワインショップなど、日本の高質な商品から世界の一流品まで、新しい食の愉しみが発見できる専門店が集積します。

お米とごはん 隅田屋

東京墨田区に100年続く老舗米店によるお米とごはんのお店。伝統的な古式精米技術と独自のブレンド技術、炊飯技術を駆使して、料理に合わせた最適なお米やご飯を提供。人気レストラン、料亭とのコラボレシピでつくるおむすびとおこわ、店頭でブレンドするオリジナル米、不定期で開催される炊飯教室など、日本人の主食であるお米とごはんの楽しみ方や選択肢を広げます。



だし尾条

明治四年創業、豊洲市場水産仲卸「尾条商店」による、だしと化学調味料・保存料不使用にこだわった和のセレクト食品店です。看板商品の「オーダーメイドだし」は、鰹節や煮干し、昆布、椎茸など30種の国産天然原料から、世界に一つだけのだしパックが作れます。また、目利きが厳選したグロッサリーやごはんのお供など、全国の美味しいモノをセレクトして提供します。



スイーツ・ベーカリー

世界で活躍する新進気鋭のシェフやパティシエ、食へのこだわりをもった一流の作り手が集まり、クラフトマンシップの精神でこだわりぬいた商品や、新たな食の定番を提案します。大切な人への手土産や贈り物から、自分へのご褒美まで、選んで嬉しいスイーツが揃っています。

LANIGIRO

白金台で人気を博した「TIRPSE」のオーナー大橋直誉氏が手掛けるスイーツ店。シェフパティシエを務めるのは、「TIRPSE香港店」で100 Top Tables2022で最優秀パティシエ賞を受賞した堀内凜氏。

シグネチャーの生ケーキに加え、焼き菓子やシュークリームなどの新商品も展開。店内では、目の前でつくられる独創的なデザートコースをお楽しみいただけます。



Comme'N TOKYO

パンの国際大会「モンディアル・デュ・パン」で日本人初、世界一となった大澤秀一氏が代表を務めるベーカリー。目指すのは「日本人にとっておいしいパン」。食パン、バゲット、クロワッサン等の定番の食卓パンから、惣菜パンや創作系のパンまで、約100種類もの充実したラインナップを揃えます。麻布台ヒルズ店では、食育のため子どもだけが入店できる「Comme'N KIDS」も併設します。



商店会・ラボ

「麻布台ヒルズ マーケット」は、開業後も進化成長していくための仕組みを用意しています。出店する31の専門店とともに商店会をつくり、店舗同士のコラボレーションや新しい取り組みを生み出していきます。さらには、「麻布台ヒルズ」内外の店舗やレストランのシェフ、学校、企業、施設、地域、様々なプロジェクトなどとも協働し、食を軸にしたラボ活動を行っていきます。

マーケット内に設けられた食堂スペースやポップアップスペースを始め、街の菜園や広場なども使って、街全体で学び・発見・体験できる場を創っていくとともに、ウェルネスやサステナビリティに関する取り組みも行い、食を通して暮らしと未来を豊かにするためのチャレンジをしていきます。



日本や各国の食文化が学べるワークショップ(イメージ)



食の循環を体験できる街の菜園イベント(イメージ)

■施設概要：麻布台ヒルズレジデンス

「麻布台ヒルズレジデンス」 緑の中で暮らしながら、都市に生きる豊かさを最大化する住宅

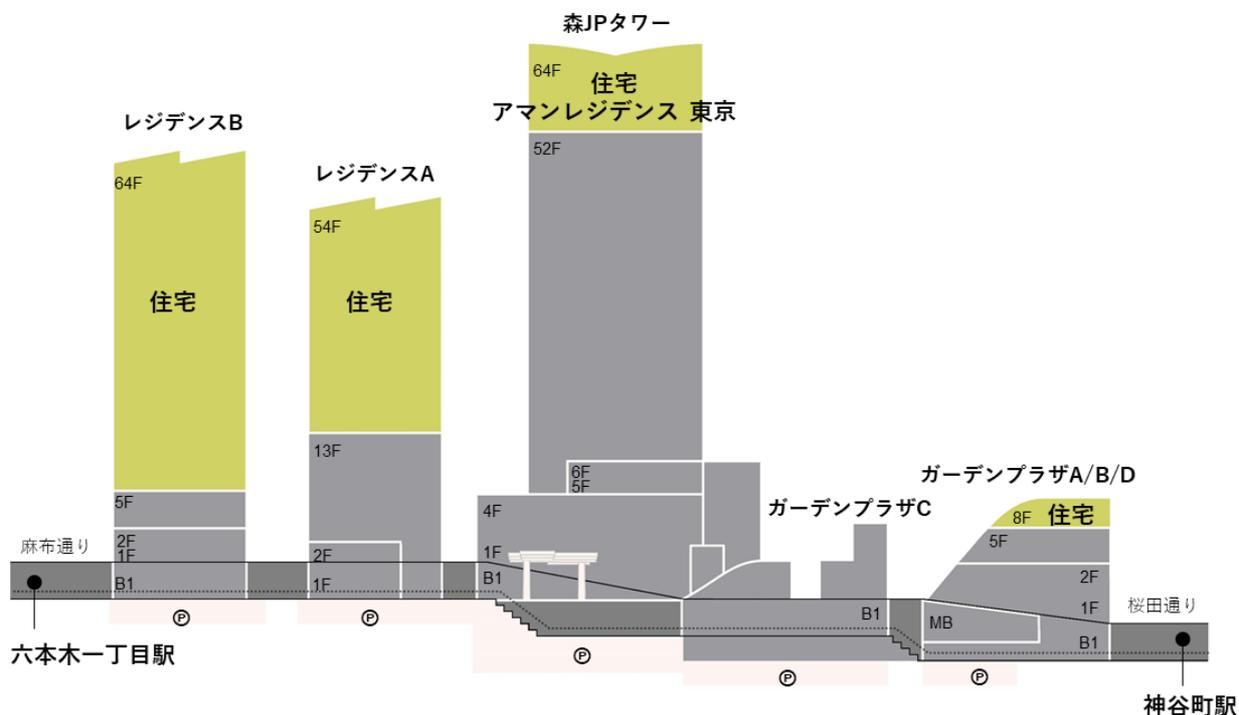
森ビルは「都心に居住する」ということにこだわってきました。住み、働き、遊び、学び、憩う、すべての都市機能をコンパクトに複合させたヒルズという街で、都市生活の豊かさを目指してきました。それこそが「ヒルズライフ」です。

「Green&Wellness」をコンセプトとする「麻布台ヒルズ」に住むということは、都市の先進性と利便性を存分に享受しながら、圧倒的な緑の中で暮らすこと。健康を支えるスパや医療施設、食品館、パブリックアートやギャラリーなど身近に文化が溢れ、自然と調和した豊かな環境では、心と体の健康はもちろん、より人間らしく、より豊かに生きることができます。その中にある邸宅としての機能を極めた「麻布台ヒルズレジデンス」は、森ビルのノウハウを注ぎ込んだレジデンスです。都心を見渡す眺望のほか、間取りや設備、デザインにおいて高いクオリティを追求し、日々を豊かに過ごす場所として、ゲストをお迎えする場所として、こだわりぬいた共用施設や、ひとりひとりに向き合うサービスを提供します。

また、「森JPタワー」最上部に位置する「アマンレジデンス 東京」は、世界各地の唯一無二の特別な場所でラグジュアリーリゾートを手掛けるアマンと組んだ、わずか91邸の限られたレジデンス。究極の非日常と穏やかさに包まれた暮らしを提供する、他にはないエクスクルーシブな住宅です。

東京が国際都市間競争を勝ち抜くためには、国内外で活躍するグローバルプレイヤーとその家族のニーズに応じた世界水準の住環境の整備が不可欠です。「麻布台ヒルズ」では、これまでの東京になかった最先端の住宅をつくり、都市に住むことの新たな価値を提案することで、東京の住宅マーケットの可能性をさらに広げつつ、国際都市・東京の磁力向上に貢献します。

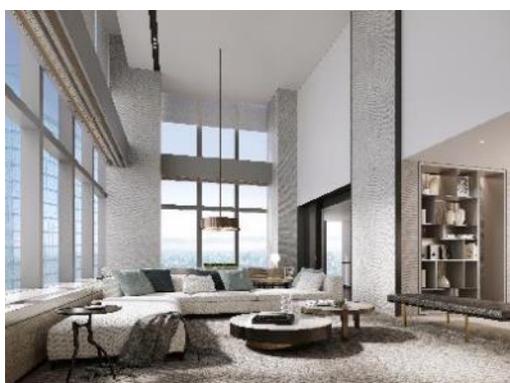
所在地	： 森JPタワー（54階～64階）、レジデンスA（14階～53階）、 レジデンスB（6階～64階）、ガーデンプラザレジデンス（6階～8階）
戸数	： 約1,400戸
専有面積	： 約182,800㎡（約55,300坪）
居住者数	： 約3,500人



麻布台ヒルズレジデンスA

14階から53階、計320戸の住宅。2層吹き抜けのリビングルームやプール付きの住戸など、ゆとりと解放感のある住空間を用意するほか、1階から13階に位置するアマンの新ブランドホテル、「ジャヌ東京」と連携したホテルサービスも用意しています。

所在地	: レジデンスA 14階～53階
戸数	: 320戸
間取り	: 1ベッドルーム～5ベッドルーム
インテリアデザイン	: SCDA アーキテクト
共用施設	: ラウンジ、ゲストルーム、ダイニング 他
森美術館監修 共用部アート	: アルベルト・ヨナタン、レオノール・アントゥネス、神谷徹



麻布台ヒルズレジデンスB

6階から64階、計970戸の住宅。30㎡台のコンパクトな住戸から、400㎡に近い住戸まで幅広いサイズの住戸を揃えるほか、13階～18階に位置する168戸は、短期滞在ニーズにも対応する家具付き短期賃貸「サービスアパートメント」として展開します。

所在地	: レジデンスB 6階～64階
戸数	: 970戸
間取り	: 1ルーム～4ベッドルーム
インテリアデザイン	: マルコ・コスタンツィ・アーキテクト(共用部・31階～64階専有部) 日建スペースデザイン(6階～30階専有部)
共用施設	: ラウンジ、ゲストルーム、スタディールーム、シアタールーム、ジム、キッズルーム 他
森美術館監修 共用部アート	: 三嶋りつ恵、ミット・ジャイ・イン、ミカ・タジマ



■施設概要:麻布台ヒルズレジデンス

麻布台ヒルズ ガーデンプラザレジデンス

6階から8階、計31戸の住宅。ヘザウィック・スタジオが手掛けるユニークなランドスケープの中にある、「麻布台ヒルズ」で唯一の低層住宅。街に広がる緑に最も近い住環境です。

所在地	: ガーデンプラザレジデンス 6階～8階
戸数	: 31戸
間取り	: 1ベッドルーム～4ベッドルーム
インテリアデザイン	: マルコ・コスタンツィ・アーキテクト(共用部) 日建スペースデザイン(専有部)



アマンレジデンス 東京

54階から64階、計91戸のアマンブランドレジデンス。約1,400㎡の専用のアマン・スパを含む、エクスクルーシブな共用施設とサービスを提供します。卓越したデザインとプライバシーの守られた環境を配慮し設計された邸宅では、専用エレベーターロビーから各住戸にアクセスすることができ、息をのむ眺望をお楽しみいただけます。まさにアマンのライフスタイルが息づく、唯一無二の環境を提供します。

所在地	: 森JPタワー 54階～64階
戸数	: 91戸
間取り	: 2ベッドルーム～6ベッドルーム
インテリアデザイン	: ヤブ・プッシュェルバーク
共用施設	: ラウンジ、バー、プライベートダイニングルーム、ティールーム、 ライブラリー、リーディングルーム、アマン・スパ(1,400㎡)他



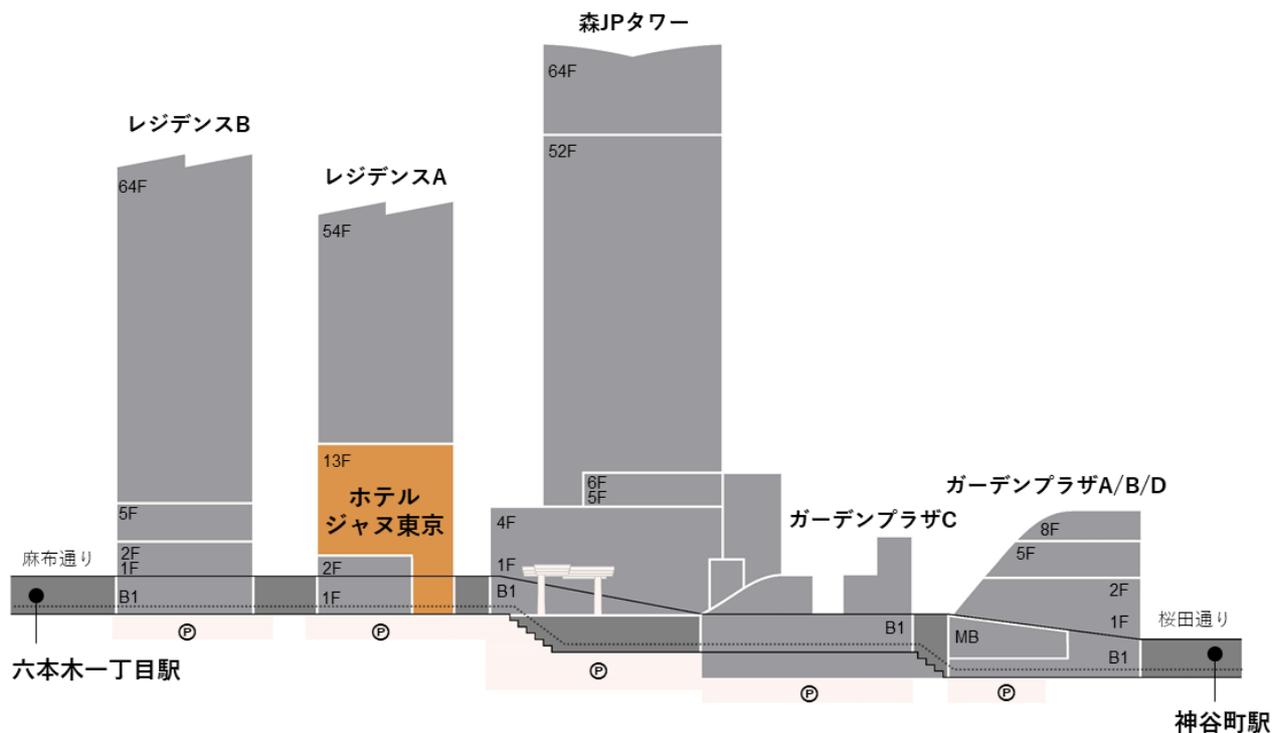
■施設概要: ジャヌ東京

「ジャヌ東京」 アマンが手がける、世界初登場の姉妹ブランドホテル

「レジデンスA」の低層部(1階-13階)には、モダンで遊び心のあるアマンの姉妹ブランド「Janu(ジャヌ)」の世界初となるホテル「ジャヌ東京」をオープンします。サンスクリット語で「魂(Soul)」を意味する「ジャヌ」は、アマン同様、他にはないゲスト体験を実現するとともに、アマンの静謐な隠れ家とは対照的に、躍動的なソーシャルシーンを届けます。人と人のつながりや地域性を大切にしつつも、コンテンポラリーな東京を表現した、「ONLY IN TOKYO」の価値を提供します。

インテリアデザインにはジャン=ミッシェル・ギャシー率いるデニストン設計事務所を起用。緑豊かな中央広場に面した絶好のロケーションに位置する122室のホテルは、グループ用のファンクショナルトレーニングスタジオやフィットネスジムを備えた都内ホテル最大級となる約4,000㎡のウェルネス施設や、多様なシーンで利用可能な8つのレストラン&バーなども備え、国内外から訪れる様々なゲストを温かなホスピタリティでお迎えます。

所在地	: レジデンスA 1階~13階	客室数	: 122室
総面積	: 約24,600㎡(約7,450坪)	標準客室面積	: 60㎡
ウェルネス施設面積	: 約4,000㎡(約1,210坪)	インテリアデザイン	: デニストン設計事務所
共用施設	: レストラン、カフェ、バー、ウェルネス施設(トリートメントルーム、ジム、スパハウスなど) 他		



「オフィス」 緑あふれる街のすべてがワークプレイスに

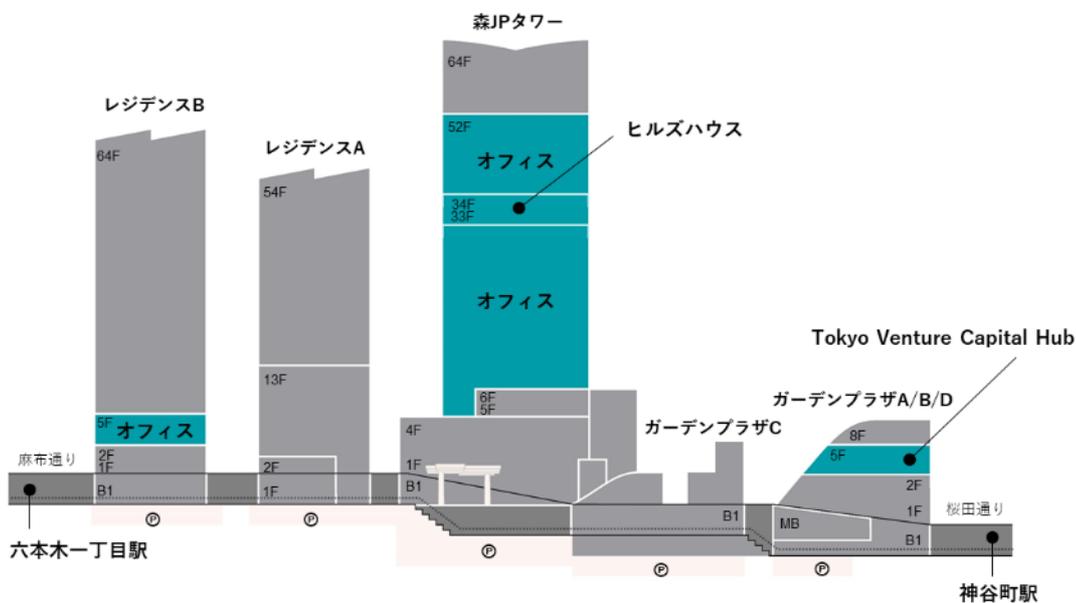
「麻布台ヒルズ」では、街全体がワークプレイスになります。総貸室面積約214,500㎡にもおよぶオフィスは、「森JPタワー」の7階～52階を中心に、「ガーデンプラザ」「レジデンスB」にもワークスペースを備えており、多彩な働き方を実現します。就業者数は約20,000人を想定。「森JPタワー」におけるオフィスの基準階貸室面積は、約4,800㎡(約1,450坪)と、最大級のフロアプレートを持ち、グローバル企業の多様なニーズにこたえる国際水準のオフィスです。

これだけのスケールのオフィスが圧倒的な緑の中にあることに加え、街全体をワークプレイスとして活用いただけるよう、「ヒルズハウス」をはじめ、様々なシステムやサービスなどもご用意。この街ならではの自由で創造的な働き方をサポートします。また、安心安全を守る強固なBCP対策や、街全体に対する「RE100」対応の再生可能エネルギーの電力供給など、高い付加価値を提供します。

貸室面積 : 約214,500㎡(約64,900坪)	就業者数 : 約20,000人
<森JPタワー> 階数 : 7階～52階 貸室面積 : 約204,600㎡(約61,900坪) 基準階面積 : 約4,800㎡(約1,450坪)	<レジデンスB(スモールオフィス)> 階数 : 3階～5階 総貸室面積 : 約4,200㎡(約1,270坪) ※1区画あたり 約9坪～32坪 <ガーデンプラザB> 階数 : 3階～5階 貸室面積 : 約5,700㎡(約1,700坪)



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills



豊富なバリエーション

「森JPタワー」の1フロア約4,800㎡(約1,450坪)の大規模オフィスから、「レジデンスB」の小規模オフィスまで、豊富なバリエーションのオフィスを提供します。

また、独立系ベンチャーキャピタルやコーポレートベンチャーキャピタル約70社が集い、スタートアップの成長に欠かせないリスクマネーを供給する拠点となる「Tokyo Venture Capital Hub」も開設。日本経済活性化の起爆剤となることを目指します。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
オフィスエントランス(イメージ)

街のすべてをワークプレイスにするための「場」と「仕掛け」

スカイロビーには、企業の垣根を越えてワーカーが集い、ワーカーのウェルビーイングを促進するクラブハウスのような「ヒルズハウス」を開設。

また、ヒルズネットワークを活用して、企業やワーカーの多様なニーズに応えると共に、ワーカーのウェルビーイングを高めるプログラムなども展開予定です。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills
ヒルズハウス「Members Lounge」(イメージ)

テナントが執務空間の環境をカスタマイズできるオプションを用意

執務空間には空気質センサーを設置し、温湿度やCO2濃度、PM2.5などの空気質をWEB上で可視化しています。また外気導入量の上限を増加させることで、良質な空気の確保したり、CO2濃度の低減を行いワーカーの生産性向上に寄与するオプションも用意しています。併せて入居企業自身がビル全体の節電・省エネに積極的に協力できるよう、ビル側だけでなく入居者側でも執務空間内の空調・照明機器の制御を可能としています。



空気質のWEB上での可視化(イメージ)

強固なBCP対応

「麻布台ヒルズ」の全てのタワーは特級レベルの耐震性能をクリアしており、災害発生時には従業員の安全・安心を実現します。停電時には、中圧ガスと重油を利用した自家発電を用いて事業継続性を実現します。震災備蓄品や震災井戸なども常時控え、帰宅困難者にも対応。「麻布台ヒルズ」に拠点を構えることで、強固なBCP対応が実現します。



ガスエンジン発電機(イメージ)

■施設概要:ヒルズハウス

「ヒルズハウス」 街全体をワークプレイスにするための「場」と「仕掛け」

「森JPタワー」33～34階に誕生する約3,300㎡(約1,000坪)の「ヒルズハウス」は、入居企業とその従業員が、街全体をワークプレイスとして使うための拠点となる施設です。企業の垣根を超えてワーカーが集うクラブハウスとしての「場」と、街の様々な機能やサービスをカスタマイズできる「仕掛け」は、街と企業が連携して、理想的な働き方を模索し、創り出すことを目指しています。また、「慶應義塾大学予防医療センター」やフィットネスなど、他の施設とも連携して人々のウェルネスを推進し、自社のオフィス単体では実現できない、より豊かで創造的なワークスタイルを実現します。

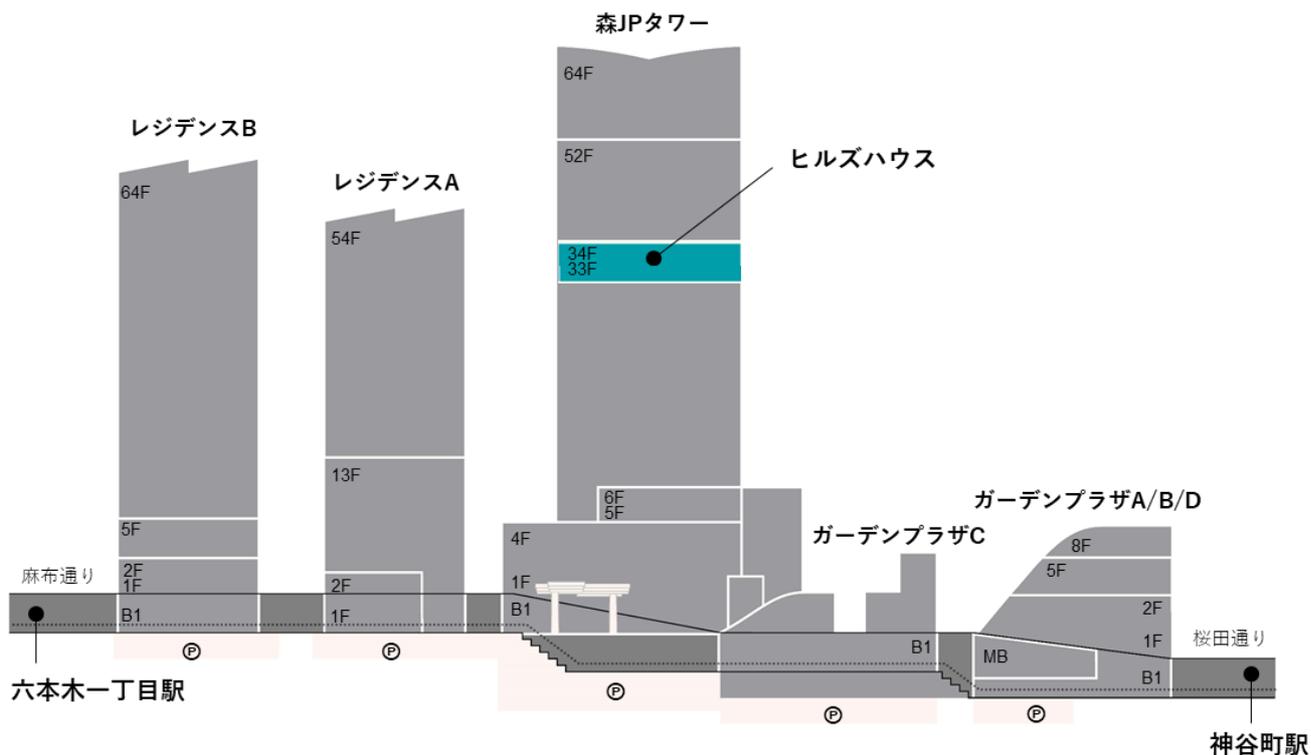
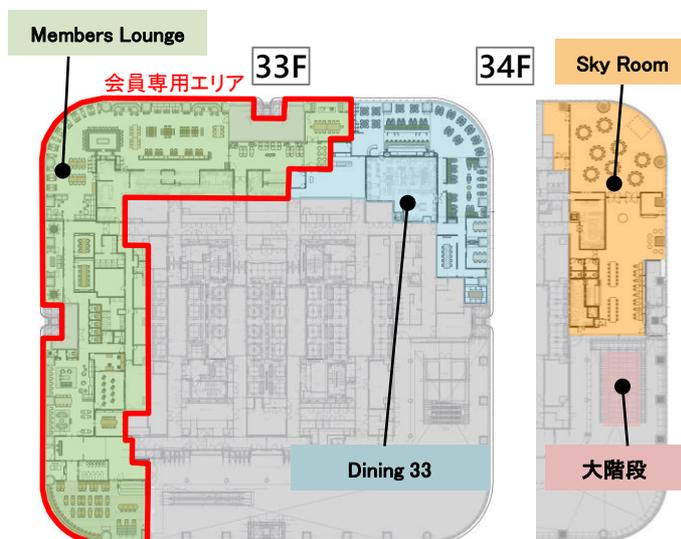
インテリアデザインを手がけたのは、ジャモアソシエツの高橋紀人氏。シンプルで自然なカラースキームや、普遍的で心地よい素材を選定し、毎日立ち寄りたくなる空間を演出することで、多くのワーカーで賑わい、企業の垣根を超えて人と人をつなぐ場として機能させます。

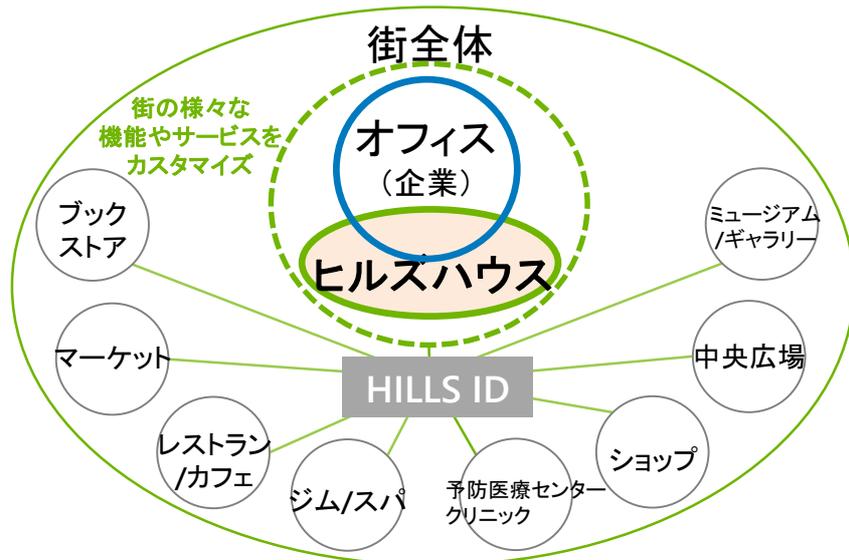
交流や学びの場であり、働く場であり、ときに憩いの場でもある「ヒルズハウス」から様々な出会いやアイデアが生まれていきます。

Hills House

A Z A B U D A I

所在地 : 森JPタワー33～34階
 施設面積 : 約3,300㎡(約1,000坪)
 Members Lounge :
 約1,800㎡(約550坪)
 Sky Room : 約720㎡(約220坪)
 Dining 33 : 約700㎡(約210坪)
 大階段 : 約100㎡(約30坪)





ヒルズハウス 概念図



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

多様な働き方を実現し、ウェルネスサービスを提供する会員制エリア「Members Lounge」

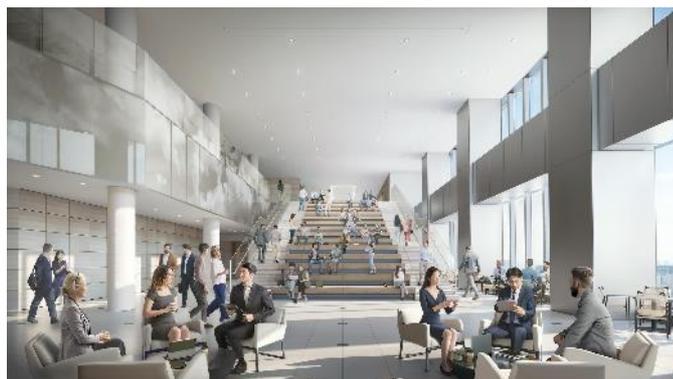


ビジネスからプライベートまで幅広く利用できるグランビストロ「Dining33」



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

セミナー、企業の貸切対応、宴会など幅広い利用が可能なレストラン/スペース「Sky Room」



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

多様な人々と交流し、新たな発見が得られるイベントスペース「大階段」

<ヒルズハウス(※) デザイナー: ジャモアソシエイツ 高橋 紀人氏> ※「大階段」除く

インテリアデザインを学んだ後、工房を備えたデザインスタジオ「EXIT metal work supply」の設立に参加。4年間、店舗用什器のデザイン、制作に没頭。デザイナーとして独立後、2000年にインテリアスタイリスト神林千夏(現Studio Early Birds)と共にジャモアソシエイツを設立。様々な要望に対して、膨大なアイデアと緻密な計算、ユーモア、多くの経験による機能性の追求、持ち前のバランス感覚で細部までこだわる美しい空間を仕上げる。



■施設概要:ヒルズハウス

Members Lounge

約1,800㎡(約550坪)の「Members Lounge」では、健康的な食事メニューを提供するカフェテリアや、柔軟に働くことのできるワークスペース、交流や学びの機会を提供する多用途スペースを備えています。

Club Lounge(カフェテリア)

WELL認証の基準を満たす、健康に配慮した食事メニューをはじめ、ワーカーのウェルネスを食の側面からサポート。夜はバーラウンジとしてアルコールも提供し、1名でも複数名でも利用可能。カジュアルで心地よい空間と交流を促進する場となります。平日の夕方や週末は、カフェテリア全体を貸し切ることが可能です。



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

Work Lounge(ワークスペース)

ワーカーの健康的なワークスタイルを支援するファシリティを整備。共用ワークスペースに加えて、ミーティングルームや個室ブース、ライブラリーなどを備え、多様な働き方をサポートします。



Park Lounge(多用途スペース)

メンバーシップ活動の拠点となるエリア。通常時はワークスペースとして利用いただけるほか、平日の朝や夕方、週末はセミナーやカジュアルな懇親会の実施も可能。ヨガやストレッチなどのプログラムの他、会員限定のコミュニティイベントや学びの機会を提供することで、心と体の健康や、社会とのつながりに注目したウェルネスサービスを展開します。



Sky Room

ミーティングや企業の貸切対応、パーティなど、多様な目的に対応する、「麻布台ヒルズ」唯一の大型ダイニングスペース。通常時はドリンクや軽食、「Dining 33」の本格的なスイーツを提供するカフェ&バーを設置しています。

また、8m幅のダイナミックな階段と9mの高天井を誇る「大階段」は、日常はワーカーの活発なコミュニケーションや憩いの場となり、イベント開催時には会場やプレゼンテーションを効果的に演出します。



Sky Room



Sky Room



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

大階段



© DBOX for Mori Building Co., Ltd - Azabudai Hills

大階段

Dining 33

三國清三シェフの感性と創造力を受け継ぐグランビストロ。大皿料理をシェアするという、三國氏のキャリアの中でも初となる業態は、親密さを演出し、日常使いから懇親・接待まで、様々なシーンで豊かな語らいの時間を提供します。

また、併設するパティスリー「Dining 33 a la maison」ではハレの日に嬉しい華やかな生菓子の他、企業の「お持たせ」需要に対応するスイーツも販売します。



<三國 清三シェフ>

1954年北海道増毛町生まれ。15歳で料理人を志し、札幌グランドホテル、帝国ホテルで修業し、1974年日本大使館ジュネーブ軍縮会議日本政府代表部料理長に就任。その後、いくつかの三つ星レストランで修業を重ねて帰国。1985年東京・四ツ谷にオテル・ドゥ・ミクニを開店。2013年フランスワ・ラブレー大学にて名誉博士号を授与される。2015年フランス共和国よりレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを受勲。現在も子供の食育活動やスローフードの推進等に尽力している。



「Tokyo Venture Capital Hub」 日本初の大規模なベンチャーキャピタル(VC)集積拠点

東京が国際都市間競争を勝ち抜くためには、イノベーションを起こすスタートアップ企業を輩出していくことが重要です。当社は、「虎ノ門ヒルズ」で、大企業の新規事業創出を支援する世界初のインキュベーションセンター「ARCH」を開設し、世界最大のスタートアップコミュニティのアジア初拠点「CIC Tokyo」を誘致。大企業の新規事業創出部門と、国内外スタートアップの集積地を創出しました。

そして、「麻布台ヒルズ」に誕生する「Tokyo Venture Capital Hub」は、日本初の大規模なベンチャーキャピタル(VC)の集積拠点です。日本ベンチャーキャピタル協会や日本のVC業界をけん引する独立系VC、日本の大企業を母体とするコーポレートベンチャーキャピタル(CVC)が合計約70社集まります。

約3,600㎡の施設は、オフィス区画だけでなく多くのCVCも参画できるようにワークエリアを設けています。また、施設内には入居企業をサポートするラウンジや会議室も用意。ワークエリアはイベントスペースに転用することが可能で、VCや投資先のスタートアップのネットワーキングイベントやピッチイベントに加えて、業界の成長や次世代VCの育成に寄与する勉強会、最新の技術を紹介するセミナーなども実施します。さらに、オフィス区画に拠点を構え、日本のVC業界を牽引する独立系VCもこれらの活動に積極的に参加する仕組みを構築し、相互交流と成長を促進。スタートアップの成長に欠かせないリスクマネー供給の拠点として、日本経済活性化の起爆剤となることを目指します。



所在地 :
ガーデンプラザB 4階・5階
施設面積:
約3,600㎡(約1,100坪)

<主な入居ベンチャーキャピタル>



ANOBAKA

B DASH VENTURES

DIMENSION



INCUBATEFUND

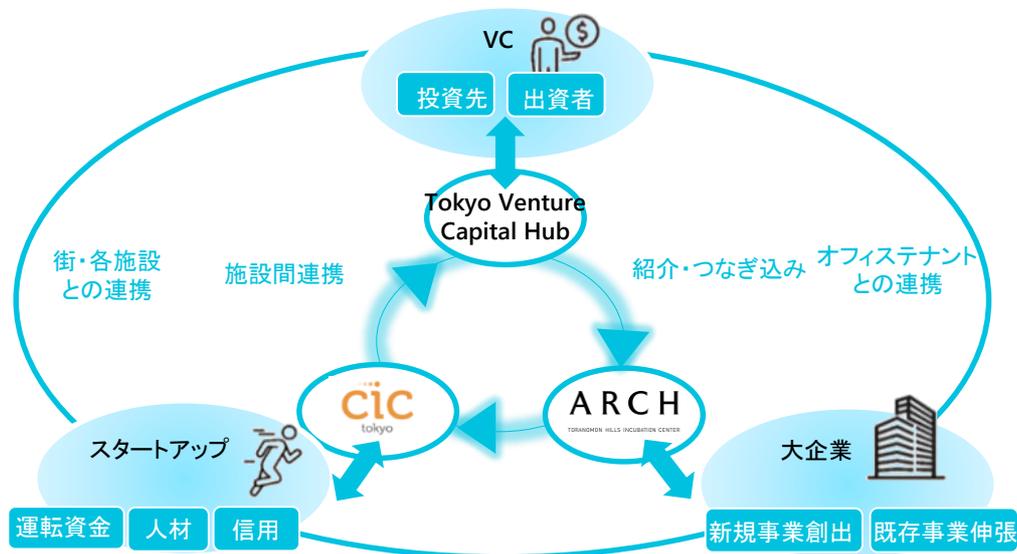


SAMURAI
INCUBATE

Spiral Capital

UTECH

さらに、虎ノ門ヒルズの「ARCH」や「CIC Tokyo」をはじめ、街(ヒルズ)の各施設との連携を通じて、スタートアップ、ベンチャーキャピタル、大企業が交流。互いの課題を補完しあいながら成長する、新たなイノベーションエコシステムを構築し、循環を促します。



インキュベーションセンター「ARCH」@虎ノ門ヒルズ

大企業の事業改革や新規事業創出をミッションとする組織に特化して構想されたインキュベーションセンター。グローバルビジネスセンター「虎ノ門ヒルズ」の形成を目指す森ビルが企画運営。米国シリコンバレーを本拠地とするWILがベンチャーキャピタルの知見をもち参画。豊富なリソースやネットワークを持つ大企業ならではの可能性と課題にフォーカスし、ハードとソフトの両面から、事業創出をサポートします。



CIC Tokyo(ケンブリッジ・イノベーション・センター)@虎ノ門ヒルズ

米ボストン・ケンブリッジ、マイアミ、蘭ロッテルダム等世界3大陸9都市に13センターを構えるスタートアップ企業の集積拠点。2020年にアジア初の拠点として「虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー」に誕生しました。スタートアップの成長を加速する強力なコミュニティとフレキシブルに働けるオフィスペース、グローバルネットワークを提供する世界トップクラスのイノベーション・キャンパスとして、多くの事業創出の舞台となっています。



情報発信拠点「TOKYO NODE」@虎ノ門ヒルズ

ビジネス、アート、エンターテインメント、テクノロジー、ファッションなど、従来型の領域やジャンルにとらわれず、様々なコラボレーションを促進することによって、新たな体験や価値、コンテンツや情報などを創出し、東京から広く世界に向けて発信することを目指しています。



■ヒルズネットワーク

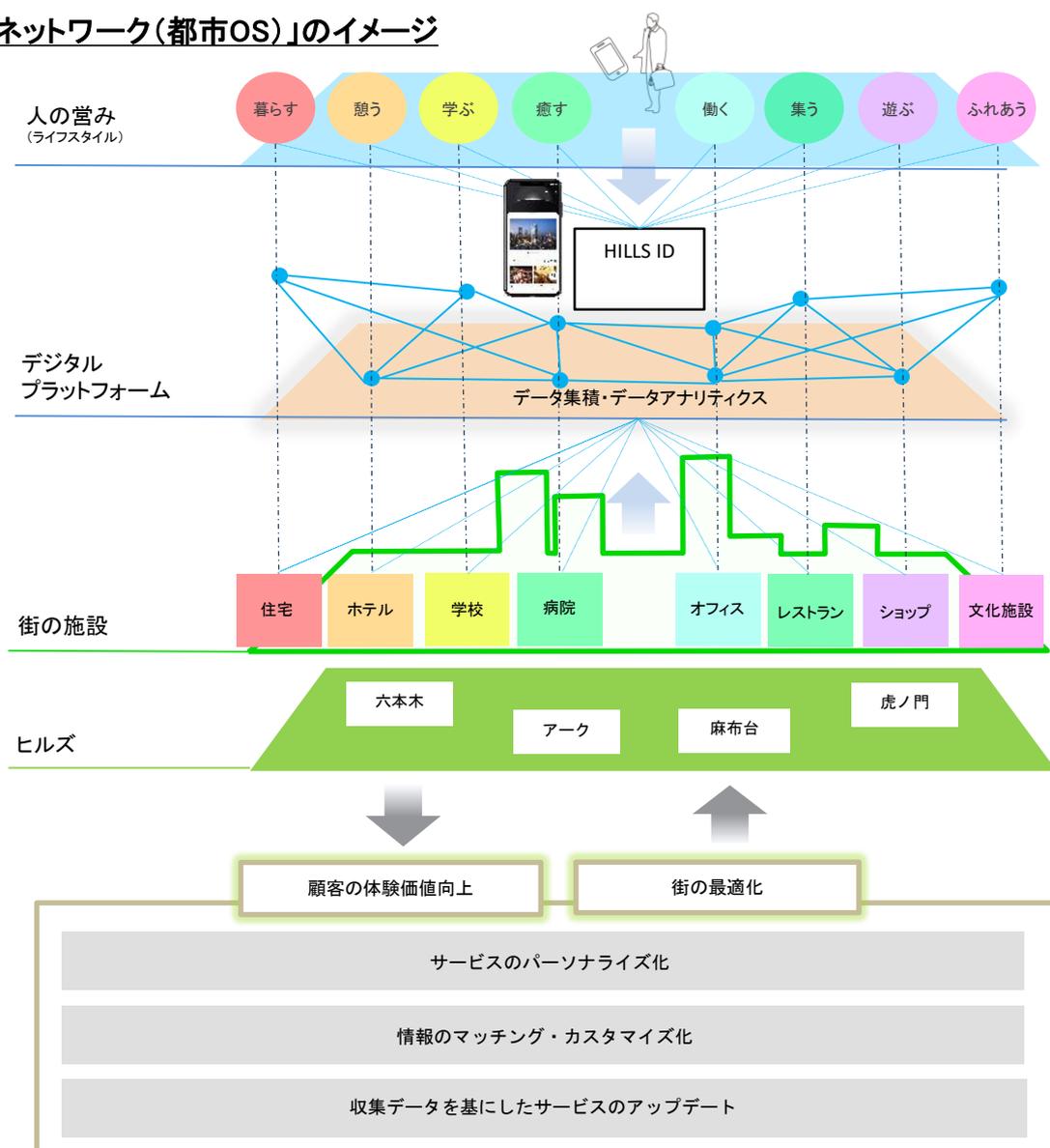
「ヒルズネットワーク」 「都市のDX」によって、より豊かな都市生活・顧客体験を実現

「ヒルズネットワーク」とは、都市のDXの推進を通じて、より便利で、より豊かな都市生活・顧客体験を実現するための都市のデジタルプラットフォーム(都市OS)です。多様な都市機能が高度に集約された「麻布台ヒルズ」でも、人々がシームレスに各施設を使えるようサポートします。

街の利用者に対して、「ヒルズID」と「ヒルズアプリ」を提供することで、利用者は様々なサービスをオンライン上で完結させることが可能となるほか、利用者の属性、街・施設の利用履歴、位置情報などのデータに基づいて、利用者ひとりひとりに最適化された「街(ヒルズ)」の情報を受け取ることが可能です。また、街側でも、利用状況をもとにしたサービスのアップデートを行うなど、より便利で、より快適な街の運営に生かすことができます。

「麻布台ヒルズ」では、「ヒルズネットワーク」によって統合された各施設のサービスや利用データをベースとし、様々な最先端技術を実装することで、これまで以上にシームレスな都市生活(ヒルズライフ)の実現を目指します。さらに、「六本木ヒルズ」「アークヒルズ」「虎ノ門ヒルズ」などの“ヒルズ”を連携・融合させることで、都心部に新たな文化・経済圏を創出します。

「ヒルズネットワーク(都市OS)」のイメージ



「麻布台ヒルズ」における「ヒルズネットワーク」の進化

これまで「ヒルズID」や「ヒルズアプリ」によって、各ヒルズを横断したイベント情報、店舗情報の検索、各サービスへのシームレスなログイン、ヒルズポイントや各種優待の提供などをワンストップで行ってきましたが、「麻布台ヒルズ」の開業に伴い、駐車場のチケットレスサービスを始めとした様々なサービスや機能が拡充します。

主な新規サービス・機能拡充

①「ヒルズアプリ」による駐車場チケットレスサービスの導入

「ヒルズアプリ」に車のナンバー情報とクレジットカードの情報を登録することで、入出場の際の駐車券が不要となり、各店舗での購入金額や会員ステータスに応じた割引や、駐車場料金の精算が自動で行われます。

②「麻布台ヒルズギャラリー」のチケット予約システムとの連携

チケット予約システムを「ヒルズID」と連携させることで、「ヒルズポイント」の加算(※)や各種優待の利用が可能となるほか、「ヒルズアプリ」によって、チケットの購入～入場までのシームレスな体験を実現します。

(※)一部対象外となる催事もあり

③居住者向けサービスの拡充

居住者向けサイトで提供している既存のサービスに加えて、荷物の預かり状況の確認、配達予約、ヴァレーサービスの予約、各種サービスのリマインドなど、暮らしをより豊かにするサービスを提供します。

④オフィスワーカー向けサービスの拡充

「ヒルズハウス」では、「ヒルズID」を活用し、イベントや共用施設の予約、ランチのモバイルオーダー等が利用可能となります。さらに「ヒルズアプリ」を通じて企業が街のアメニティをオフィスワーカーに提供するサービス「(仮称)ワーカーサポートプログラム」を新たに実装。街と企業が連携し、ワーカーのウェルビーイングをサポートします。

<(仮称)ワーカーサポートプログラム>

従業員の入居企業へのエンゲージメントを向上させるために、街全体を活用した、理想的な「働く環境」の実現を目指すプログラム。従来のオフィス環境では、社員食堂やマッサージルームなどの場を企業ごとに整備する必要がありました。しかし、「ヒルズネットワーク」の仕掛けを活用した当プログラムでは、街に入居する企業が、ヒルズハウスやレストランなどをはじめとする、ヒルズ全体を、自社の施設のように使用できるようになります。



様々な施設を横断した特典・優待が利用可能となる仕組みの導入

①特典配信アプリ(施設・店舗スタッフ用)

「ヒルズアプリ」の会員証を読み取ると即時にクーポンやベネフィットを配信できるスタッフ用アプリケーション。ヒルズ内の様々な施設で、レストランやショップの割引クーポンなどの特典を、お客様の「ヒルズアプリ」に即座に配信することが可能となります。

②HILLS SHOPアプリ(施設・店舗スタッフ用)

店舗に設置する読み取り端末に搭載するアプリケーションを一新。それにより、「ヒルズアプリ」の会員証を一度読み取るだけで、「ヒルズポイント」の加算・利用、割引クーポンの利用、ワーカーや居住者の優待の利用などをすべて行う、ワンストップなサービス提供を実現します。

「逃げ出す街」から「逃げ込める街へ」
東日本大震災レベルの地震でも生活・事業を継続できる耐震性能

「麻布台ヒルズ」では、安全・安心を支えるハード面の強化にも力を入れました。万が一の災害時には、「逃げ込める街」となるべく、様々な取り組みを行っています。

3棟のタワーは適切な制振装置を導入することで、東日本大震災や阪神・淡路大震災レベルの地震が起きた場合でも、安心して事業継続が可能な耐震性能を備えています。高強度の鋼材やコンクリートを構造部材にバランスよく採用するとともに、建物のコア部などに制振装置を積極的に配置し、地震時の揺れを効率的に低減できる高い耐震性を実現します。加えて、風揺れの影響を特に受けやすい建物頂部には大型制振装置「アクティブマスダンパー」を設置することで、地震以外の揺れにおいても、低減に努めています。

＜オイルダンパー＞ 森JPタワー 304基、レジデンスA 172基

- ・オイルの流体抵抗が揺れのエネルギーを吸収することで、風揺れから大地震まで制振効果を発揮。

＜粘性体制震壁＞ 森JPタワー 302基、レジデンスA 220基、レジデンスB 535基

- ・高粘度の粘性体の粘性せん断抵抗力を利用し、風や地震に伴う建物の揺れの振動エネルギーを吸収。

＜座屈拘束ブレース＞ 森JPタワー 1,200基、ガーデンプラザA 8基、ガーデンプラザB 130基、
ガーデンプラザD 9基

- ・鋼材を使用したブレースで、大地震時に振動エネルギーを効果的に吸収。

＜ブレーキダンパー＞ガーデンプラザB 12基

- ・ステンレス板と摩擦板の滑りと摩擦により、地震に伴う建物の揺れのエネルギーを効果的に吸収。

＜アクティブマスダンパー＞森JPタワー4基、レジデンスA 4基、レジデンスB 4基

- ・「おもり」を建物の揺れと反対方向に電気制御で動かし、風揺れや地震に対する居住性を改善。



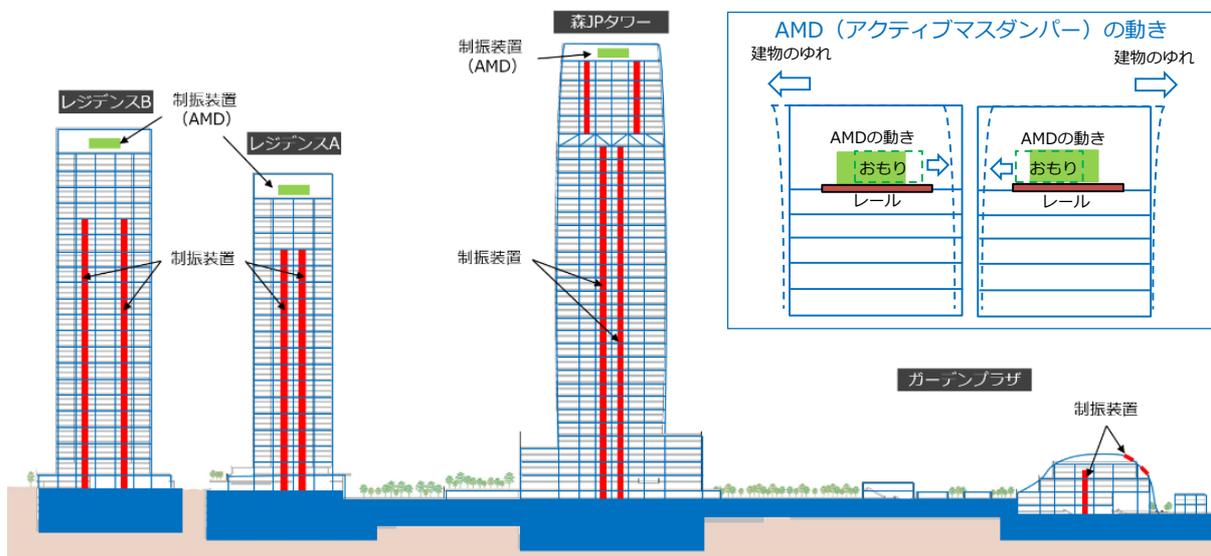
オイルダンパー



粘性体制震壁

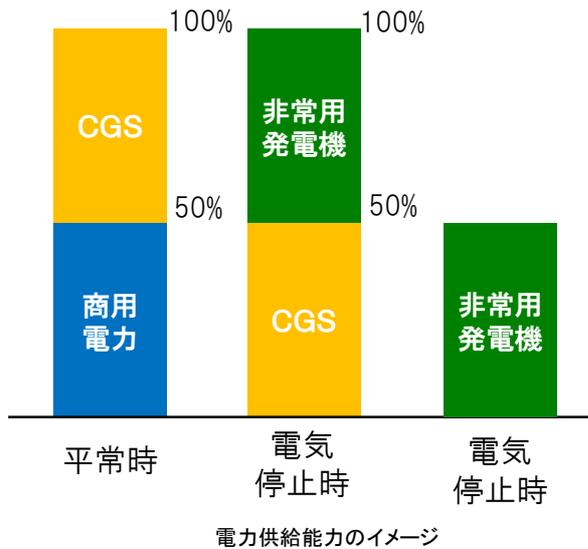


座屈拘束ブレース



災害時でも100%の電力供給を実現

「森JPタワー」の地下にはコージェネレーションシステム(CGS)と地域冷暖房施設を導入。また、各街区にも非常用発電機を設置し、災害に強い中圧ガスを使用することで、災害時においても街全体に必要な電力と熱を100%安定的に供給します。



ガスエンジン発電機(イメージ)



監視室(イメージ)

帰宅困難者の受け入れ

災害などにより、周辺エリアで帰宅困難者が発生したときは、約3,600人が一時滞在できる、約6,000㎡の受入スペースを確保しています。

森ビルは、「六本木ヒルズ」や「虎ノ門ヒルズ」において東京都港区と「災害発生時における帰宅困難者の受け入れ等に関する協力協定」を締結しており、「麻布台ヒルズ」でも官民連携のもと、周辺地域の防災拠点として貢献していきます。

「虎ノ門ヒルズ ステーションタワー」と「麻布台ヒルズ」が完成することにより、当社が管理・運営する施設全体で約1.4万人の帰宅困難者の受け入れが可能となり、備蓄食料は約36万食に上ります。

- ・帰宅困難者の一時滞在施設の整備(約6,000㎡、約3,600人)
- ・防災備蓄倉庫の整備(約150㎡、約3,600人×3日分)
- ・防災井戸を整備し、災害時のトイレ洗浄水等として活用



帰宅困難者受け入れ風景(訓練時)



防災備蓄倉庫



多彩な備蓄品

街を挙げて環境負荷の低減を実現 複数の国際環境認証の最高ランクを取得

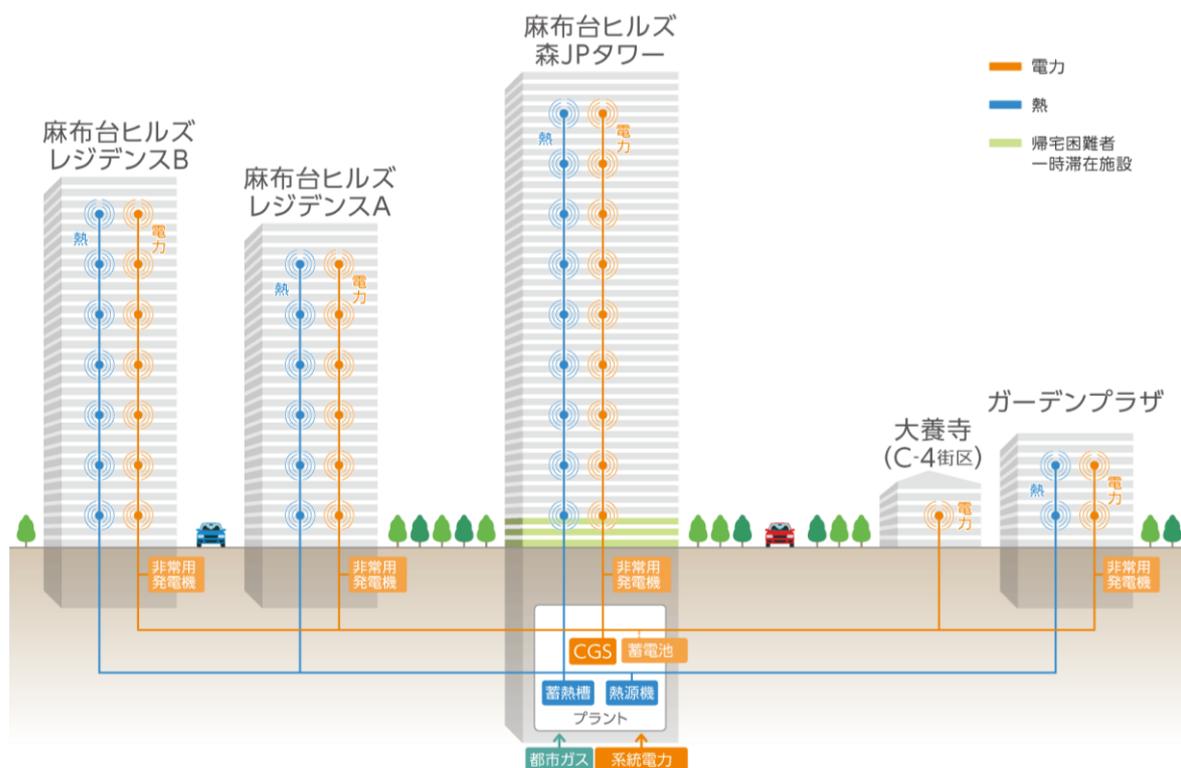
街で使われる電気はすべて再生可能エネルギー

「麻布台ヒルズ」全体で、国際的なイニシアチブRE100に対応する、CO2排出ゼロの再生可能エネルギー電力を利用します。これにより、竣工時からオフィスや店舗、住宅、イベント施設など、街区で利用するあらゆる電力が再生可能エネルギー電力となります。例えば、来街者用の駐車場に設置している急速充電器で充電した電気自動車はCO2フリーでの走行が可能といえます。

さらに、入居テナントには、再エネ電力のトラッキング情報を記載した再生可能エネルギー証拠書類を、当社独自の「エネルギーWEBシステム」を通じて自動的に頒布するシステムも導入します。

エネルギーの面的利用による効率的なエネルギー供給

「麻布台ヒルズ」全体にエネルギーを供給する高効率エネルギーセンター(虎ノ門エネルギーネットワーク株式会社)を、「森JPタワー」に設置。エネルギーの使用傾向が異なるオフィスや住宅、ホテルなどの用途を複合させることで、街全体でエネルギーをネットワーク化。さらにエネルギーセンターにAIを導入することで、複合用途のコンパクトシティならではの、効率的なエネルギー供給を実現します。



下水熱を地域冷暖房に活用

未利用かつ再生可能なエネルギーである下水熱を、「麻布台ヒルズ」全体における冷暖房の熱源の一部として活用します。気温に比べ「夏は冷たく、冬は暖かい」温度特性を持つ下水の熱を回収し、利用することで、年間70tほどのCO2排出量の削減に貢献します。

街全体で雨水や雑排水を再利用

敷地内に降った雨水は貯留・処理し、外構部への散水などに再利用します。

さらに緑地整備により、十分に雨水を浸透できる計画としています。

また、レジデンスの雑排水を再利用処理し、「森JPタワー」の便器の洗浄水等として利用するなど、棟をまたいで水を有効利用します。

水栓やシャワーには節水型の器具を積極的に採用することで、街区全体で国際環境性能認証「LEED」の基準値の40%の水資源利用削減を達成しています。

街のパートナーと協働して資源循環を促進

廃棄物の総量削減に向けて、テナント・分別ごとの廃棄物量を可視化するWEBシステムを構築します。

また、飲料メーカーと一体となり、プラスチックの水平リサイクルのモデルとなる「ボトルtoボトル」を街全体で実現します。

施設内のウォーターサーバーの設置や、サーキュラーエコミーを見据えた取り組みも計画しています。



サーキュラーエコミー(イメージ)

国際環境性能認証「LEED」「WELL」の予備認証を取得

「麻布台ヒルズ」全体では、「LEED」のエリア開発を対象とした「ND」カテゴリにおいて最高ランクのプラチナ予備認証を取得。「多様な都市機能を有する複合開発」「広場を中心としたウォークアブルな街」「再生可能エネルギーによる電力の供給」が高く評価されました。「麻布台ヒルズ」による「ND」カテゴリのプラチナランクの取得は、都内初の事例となります。

「森JPタワー」のオフィス・商業施設部分では、新築テナントビル対象の建物単位の認証「BD+C (CS)」で最高ランクのプラチナ予備認証を取得。「エネルギーの面的活用」、躯体建設段階の「環境負荷の見える化や低減」、竣工後の「テナント専有部でのデマンドレスポンス制御など、入居テナントと協働して省エネに取り組む仕組み」などが高く評価されました。

「中央広場を中心とした緑化」「高い室内空気質環境」はウェルネスの取り組みとしても評価され、「森JPタワー」のオフィス・商業施設部分で「WELL」の予備認証を取得。現時点で世界第1位の登録面積の予備認証取得物件です。竣工後に最高ランクのプラチナ認証を取得予定です。LEED ND、LEED BD+Cに加えて、WELL認証でも最高位のプラチナランクの本認証を取得した際には、世界初の事例となる見込みです。



分断されていた交通網を整備、エリア全体の回遊性が大幅に向上

「麻布台ヒルズ」が位置するエリアは、桜田通り、外苑東通り、麻布通りに囲まれた中にありながら、東西を貫通する道路が未整備で、また、南北方向の主要な道路である通称「尾根道」は外苑東通りに抜けることができないなど、不完全な交通網が長年の課題でした。

しかし、「麻布台ヒルズ」によって、東西と南北の道路を整備することで、この地域の悲願でもあった道路ネットワークが完成します。さらに、六本木一丁目駅と神谷町駅を結ぶバリアフリー/アンブレラフリーの歩行者ネットワークも整備することで、周辺地区を含むエリア全体の回遊性向上に大きく貢献します。



開発前の計画地の街並み

交通課題解決に向けた取り組み

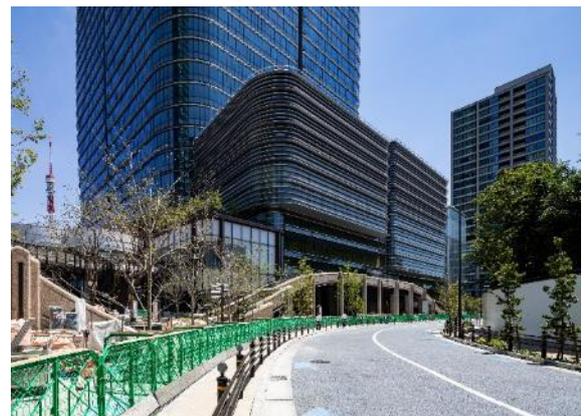
- (1) 地区幹線道路を結ぶ南北、東西方向の道路(尾根道、桜麻通り)の整備
地区全体のアクセス性向上や自動車交通の円滑化を図るネットワークを形成します。
- (2) 六本木一丁目駅と神谷町駅を結ぶ延長約700mの東西歩行者通路(地下)やデッキの整備
バリアフリー動線も整備し、多様な歩行者の安全性と利便性および回遊性を向上します。
- (3) 約1,000㎡の地下鉄連絡広場の整備
快適な滞留空間を確保すると共に、周辺市街地との結節機能をも高めるシンボル空間を創出します。



交通課題解決に向けた取り組み



桜麻通り(2023年7月)

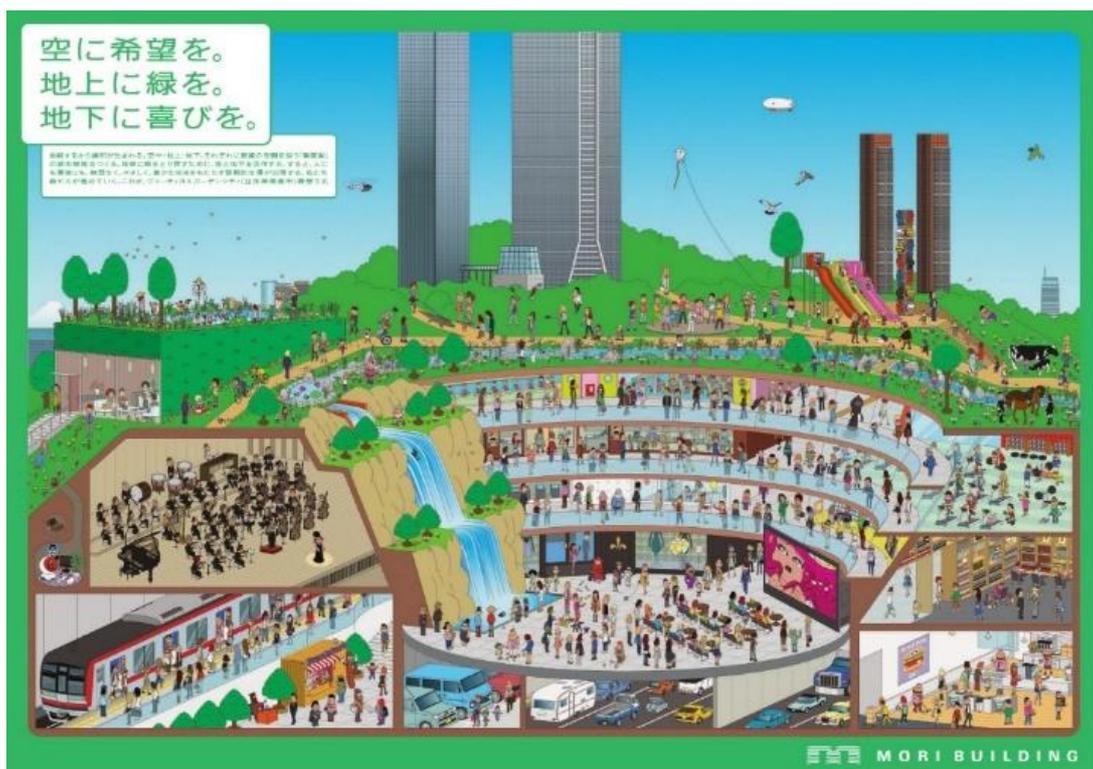
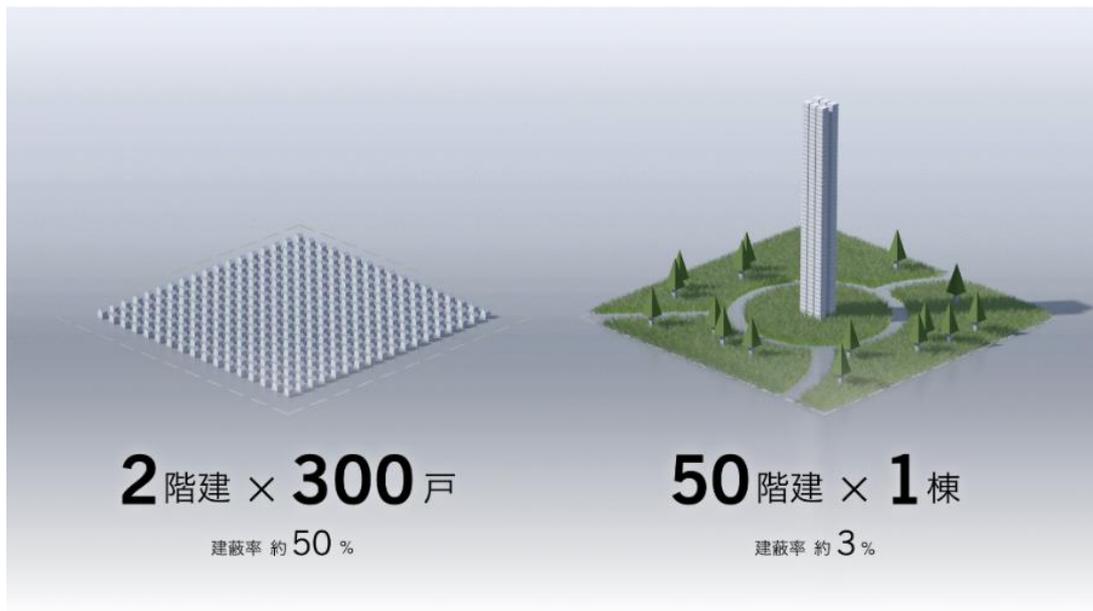


尾根道(2023年7月)

■参考: 森ビルの磁力ある都市づくり

森ビルは創業以来、「都市を創り、都市を育む」の理念のもと、都市と真っすぐに向き合ってきました。理想とするのは、多様な都市機能が高度に複合したコンパクトシティです。住む・働く・遊ぶ・学ぶ・憩う。そのすべてが徒歩圏内に集約された都市をつくれれば、多様な人を集める「磁力」となり、その集積のエネルギーがさらなる集積を呼んでいきます。

都心の真ん中でコンパクトシティを実現するためには、大きな街区を作り出す必要があります。それを実現する手法が「ヴァーティカル・ガーデン・シティ(立体緑園都市)」です。細分化された敷地を取りまとめて大きな敷地を生み出し、そこに超高層建築を建てることで、足元に緑豊かなオープンスペースを創出します。「ヴァーティカル・ガーデン・シティ」という都市づくりの手法によって、住む・働く・遊ぶ・学ぶ・憩う等、多様な都市機能が集約した、磁力ある都市を実現することができます。



さらに、都市は創るだけではなく、時間をかけて育てていくことが大切です。森ビルはディベロップメントからタウンマネジメントまで、一貫して担える組織とノウハウを蓄えて、都市のコミュニティを育ててきました。ビルを建てるだけでは街にはなりません。都市の力とは、そこに集う人々の力です。

「アークヒルズ」「六本木ヒルズ」「虎ノ門ヒルズ」など、これまでのヒルズもそうであったように、森ビルは手塩にかけてコミュニティを育むことで、街の磁力を継続的に高めています。



六本木ヒルズの盆踊り



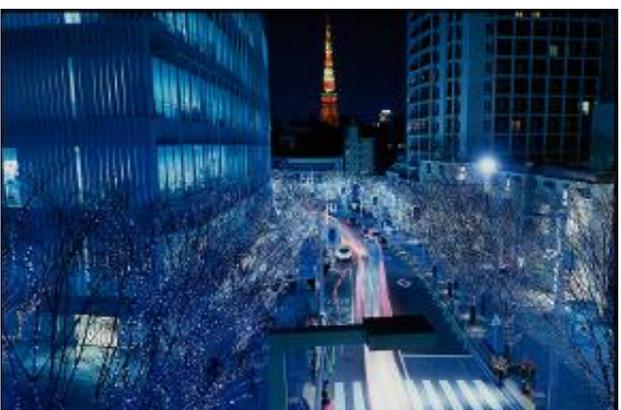
アークヒルズのマルシェ



虎ノ門ヒルズのヨガイベント



六本木ヒルズ屋上庭園での田植え



六本木ヒルズのイルミネーション



六本木ヒルズの太極拳

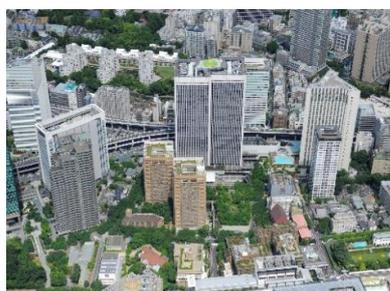
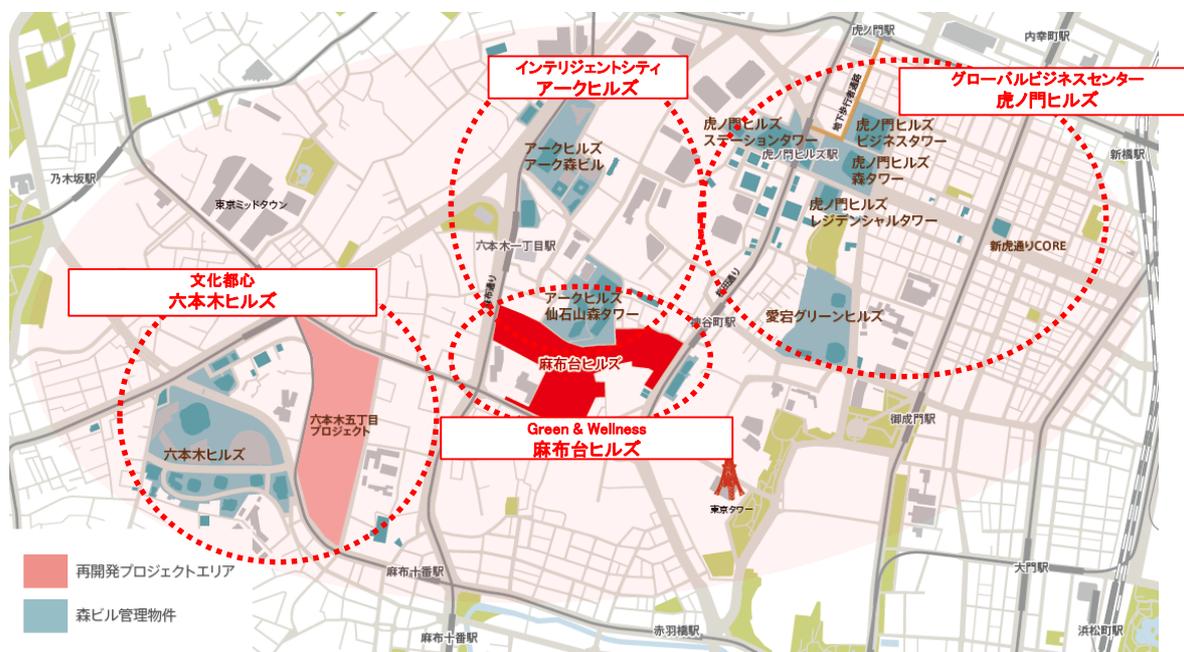
■参考：森ビルの戦略エリア（国際新都心創出への道のり）

ヒルズがつながり、新たな文化・経済圏を創出

「麻布台ヒルズ」を含む森ビルの戦略エリアは、東京の中心部・港区に位置します。このエリアは外資系企業も多数集まる国際色豊かなエリアであり、外国人居住者数も圧倒的に多い場所です。国際色が豊かで、多様性にあふれ、文化的にも豊かなこのエリアは、「国際新都心」として極めて高いポテンシャルを有しています。

「麻布台ヒルズ」は、「アークヒルズ」に隣接し、「文化都心・六本木ヒルズ」と、「グローバルビジネスセンター・虎ノ門ヒルズ」の中間、まさに森ビルの戦略エリアの中心にあり、文化とビジネスの両方の個性を備えたエリアに位置します。

2023年にヒルズエリアがつながることで、オフィス全体面積約982,000㎡、約640店舗、住宅約4,440戸、複数の文化施設をはじめとした多様な都市機能が、豊かな緑とともにこのエリアに集積します。「麻布台ヒルズ」が要となり、既存のヒルズと連携・融合することで、都心部に新たな文化・経済圏を創出し、国際都市・東京の磁力向上に貢献します。



アークヒルズ（1986年）



愛宕グリーンヒルズ（2001年）



六本木ヒルズ（2003年）



アークヒルズ仙石山森タワー（2012年）



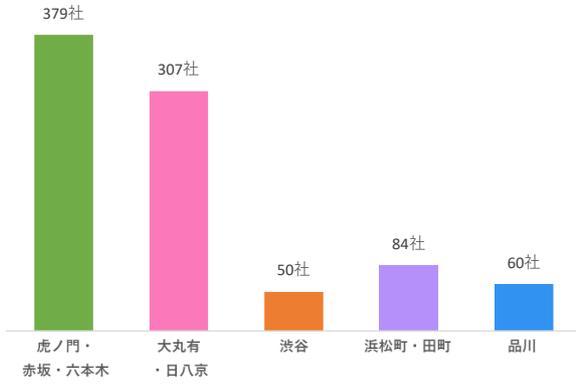
©The Boundary
虎ノ門ヒルズ
（2023年10月6日完成）



©DBOX for Mori Building Co., Ltd.
麻布台ヒルズ
（2023年11月24日開業）

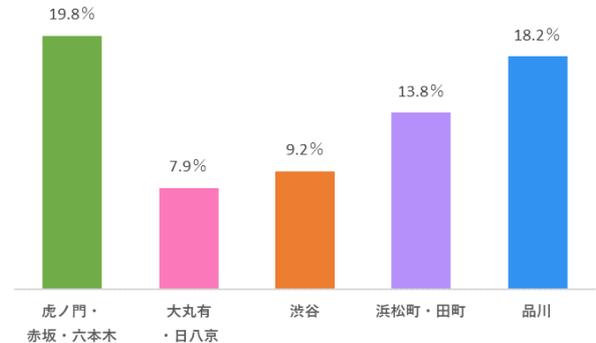
「麻布台ヒルズ」を含む虎ノ門・赤坂・六本木エリアは、東京の中心部・港区に位置します。このエリアは外資系企業も多数集まる国際色豊かなエリアであり、外国人居住者数も圧倒的に多く、緑豊かで心身ともに健康的な生活を送ることのできる場所です。国際的であり、多様性にあふれ、文化的にも豊かなこのエリアは、「国際新都心」として極めて高いポテンシャルを有しています。

外資系企業数



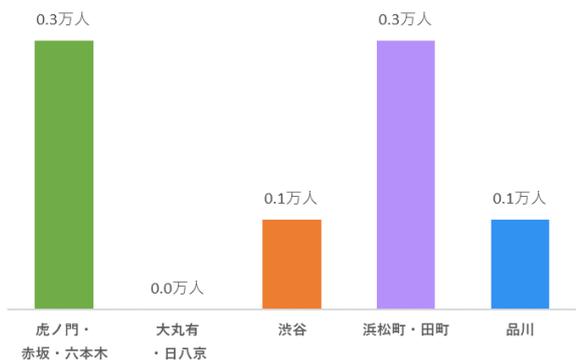
※東洋経済新報社「外資系企業総覧」2023年版から集計

緑被率



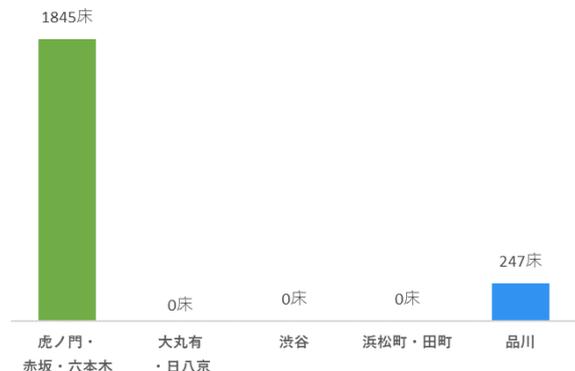
※「港区みどりの実態調査(第10次)」(令和3年度調査)、「平成30年度千代田区緑の実態調査および熱分布調査」、「平成29年度中央区緑の実態調査」、「平成25年度渋谷区自然環境調査報告書 みどりの実態調査」から集計

外国人人口



※各区ホームページ(2022.10.1)から集計

総合病院 病床数



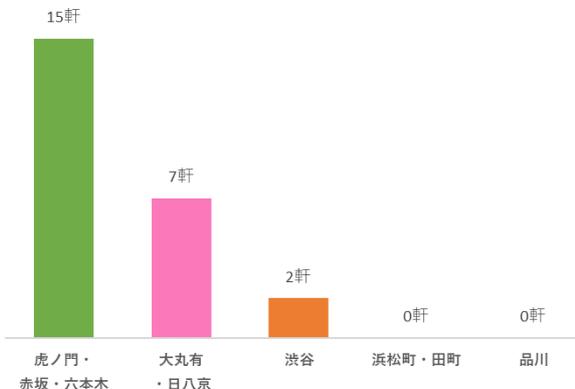
※日本医療機能評価機構の認定病院のうち、一般病院2(地域医療を支える基幹的病院)及び一般病院3(高度医療・研究)から集計

大使館数



※外務省「駐日外国公館リスト」から集計(領事館を除く)

トップレストラン



※「ミシュランガイド東京」星店舗を集計

<調査エリアの対象範囲>

◆虎ノ門・赤坂・六本木エリア[320ha]:

西新橋1~3丁目、愛宕1~2丁目、虎ノ門1~5丁目、六本木1~7丁目、赤坂1~2丁目・6丁目・9丁目、麻布台1丁目、芝公園3丁目

◆大丸有・日八京エリア[248ha]:

日本橋本石町1~4丁目、日本橋室町1~4丁目、日本橋本町1~4丁目、大手町1~2丁目、丸の内1~3丁目、有楽町1~2丁目、八重洲1~2丁目、日本橋1~3丁目、京橋1~3丁目

◆渋谷エリア[147ha]:

南平台町、桜丘町、道玄坂1~2丁目、宇田川町、神南1丁目、渋谷1~3丁目、東1丁目

◆浜松町・田町エリア[232ha]:

海岸1丁目、浜松町1~2丁目、芝1丁目・4丁目・5丁目、芝浦1~4丁目、三田3丁目

◆品川エリア[220ha]:

港南1丁目~2丁目、高輪2丁目~4丁目

「逃げ出す街」から「逃げ込める街」へ―帰宅困難者受け入れの取り組み

森ビルでは、以前から震災対策を重要な都市課題と捉え、災害時に「逃げ込める街」への転換を提唱してきました。開発地域のみならず地域の貢献も果たす防災拠点を目指して、建物の耐震性能の向上から、日々の備えまで、ハード・ソフト両面にわたる様々な取り組みを実施しています。「虎ノ門ヒルズ」と「麻布台ヒルズ」が完成することによって、当社が管理・運営する施設全体で約1.4万人の帰宅困難者受け入れが可能となり、備蓄食料は約36万食に上ります。



「阪神・淡路大震災」の教訓を活かしたハードの取り組み

阪神・淡路大震災発生時、計画だった「六本木ヒルズ森タワー」では計画を見直し、より高度な制振装置である粘性系の「セミアクティブオイルダンパー」と鋼材系の「アンボンドブレース」の導入を決定。以降、当社の大型ビルでは、現行の建築基準法で定められた基準を上回る、森ビル独自の高い耐震基準を採用しています。

さらに、阪神・淡路大震災でも被害を受けなかった「都市（中圧）ガス」を利用した自家発電プラントを、地下に設置。ヒルズに拠点を構えることで、強固なBCP対応を実現します。



セミアクティブオイルダンパー



ガスエンジン発電機

約27万食の食料を含む備蓄品を完備(2023年8月時点)

阪神・淡路大震災以降、備蓄倉庫を新設し、震災時に必要な食料や備品等の備蓄を開始しました。2023年8月時点で、約27万食(うち「六本木ヒルズ」に約10万食)の備蓄食料に加えて、毛布、医薬品、資機材、簡易トイレなど、災害時に必要となる各種備蓄を施設毎に行っています。

このうち来街者(帰宅困難者)用には、1人あたり9食分(1日3食、3日分)、計約10万食を用意。1日あたり約1,600~1,700Kcalの栄養が確保できるよう備えています。



備蓄倉庫



備蓄品(一部)

森ビル社員による、災害発生を想定した日頃の備え

有事の際には、当社全社員約1,600名が迅速な復旧活動を行うことで、街の人々の生活や、テナント企業における事業継続を支援できるよう、年に2回、全社員による大規模な総合震災訓練を実施しています。

また、夜間もしくは休日等の就業時間外に災害が発生した際でも、迅速な初動対応を取れるかが重要です。森ビルでは、事業エリアの2.5km圏内に複数の防災要員社宅や管理部員用社宅等を設け、これら住宅の居住者である防災要員にも定期的な特別訓練を行うなど、日頃から災害発生を想定した準備を徹底しています。



訓練の様子



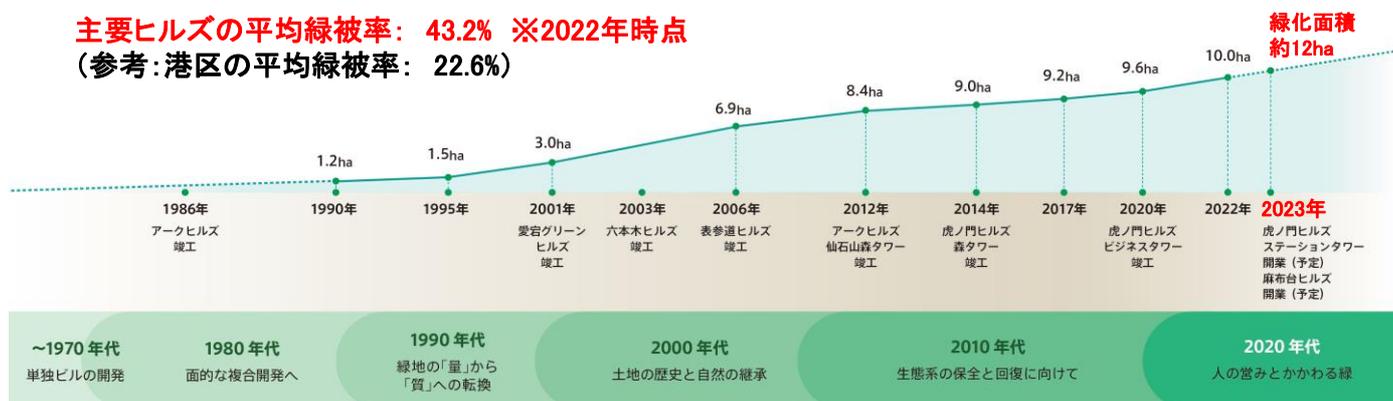
備蓄品配布の様子(訓練にて)

■参考：森ビルの戦略エリア（国際新都心創出への道のり）

30年以上の歳月をかけて育み続けた「ヒルズの緑」

森ビルでは、都市づくりのテーマに「環境・緑」を掲げ、様々な環境・緑に関する取り組みを進めてきました。都心部に、豊かな緑に覆われ、自然と共生する都市を創出すべく、再開発事業を通じて都市の緑化を推進してきました。

主要ヒルズの平均緑被率： 43.2% ※2022年時点
（参考：港区の平均緑被率： 22.6%）



「アークヒルズ」が竣工した1986年から、2003年の「六本木ヒルズ」や2014年の「虎ノ門ヒルズ 森タワー」など、緑化を意識した都市づくりを進めることで、都心に多くの緑を創出してきました。

1990年には約1.2haだった全体の緑化面積が、2023年には約12haにまで増加する見込みです。建築時に緑を加えるだけでなく、約30年もの歳月を費やして管理・運営を行うことで、六本木ヒルズの敷地面積（約9.3ha）を大きく上回る緑化面積が生み出されています。

また、「アークヒルズ」では、竣工後間もない1990年には約23%だった緑被率が、現在では約42%にまで上昇。ヒルズの緑被率は、元来緑豊かな港区の平均緑被率22.6%を遥かに上回っています。



六本木ヒルズの環境教育イベント



虎ノ門ヒルズのヨガイベント

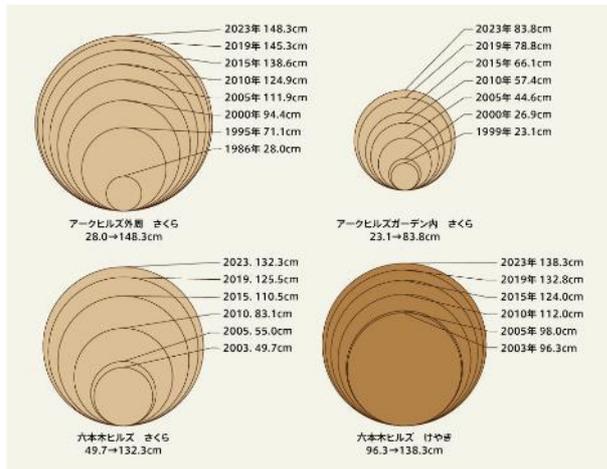
（参考）主要ヒルズ 緑被率の推移

- ・アークヒルズ：1990年 23.3%→2022年 42.1%
- ・愛宕グリーンヒルズ：2006年 44.4%→2022年 53.0%
- ・元麻布ヒルズ：2006年 44.3%→2022年 54.9%
- ・六本木ヒルズ：2006年 26.5%→2022年 30.8%
- ・仙石山森タワー：2014年 37.0%→2022年 47.1%
- ・虎ノ門ヒルズ 森タワー：2014年 24.8%→2022年 31.0%

人の手で緑を育む

植栽のメンテナンスにも力を入れ、大切に育てています。

例えば、1986年の竣工当時は、平均28cmだった「アークヒルズ」の桜の幹の太さは、2023年には平均148cmを越え、30年以上経った今でも毎年緩やかに成長しています。「アークヒルズ」や「六本木ヒルズ」は、現在では多くの人が訪れる桜の名所として知られています。



アークヒルズ、六本木ヒルズのさくら、けやきの成長

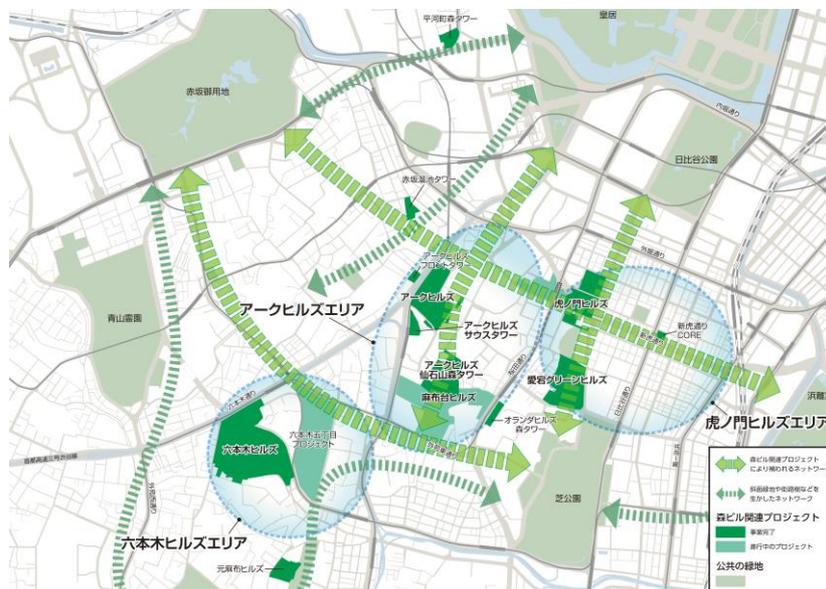


アークヒルズのガーデン

生物多様性にも配慮した都市づくり

再開発事業を通じて創出されたヒルズの緑は、東京都心における「エコロジカルネットワーク」の拠点として、重要な役割を担っています。エコロジカルネットワークとは、生きものが移動しやすいよう、生活拠点となる大規模な緑地を核として、それらを小規模な緑地や街路樹などで有機的につないだ生態系のネットワークです。

さらに、より生きものが棲みやすくなるよう、2007年頃から生物多様性に注目し、緑地の整備量に加え、質の高い緑地の創出にも注力してきました。2012年竣工の「アークヒルズ仙石山森タワー」は生物多様性の視点を全面的に取り入れた日本初のプロジェクトとして完成しました。その結果モニタリング調査(2016年)では、都心部では稀にしかみられない“コゲラ”や、“ヤマガラ”(東京都が23区内を対象として絶滅危惧Ⅱ類に指定)をはじめとする14種の鳥や10種の蝶が確認でき、生態系に配慮した緑地管理の効果が確認されました。



エコロジカルネットワーク

■参考：森ビルの戦略エリア（国際新都心創出への道のり）

都市づくりに文化・アートを取り入れて、都市の磁力を向上させる

森ビルでは、事業のテーマ1つに「文化・芸術」を掲げ、都市づくりに積極的に取り入れてきました。

例えば、「文化都心」をコンセプトに掲げた「六本木ヒルズ」では、アジアを代表する現代美術館「森美術館」をはじめ、日常生活の中でアートを楽しめるパブリックアートや、周辺施設と連携したアートイベントなど多様な文化を発信してきました。開業から20年を経た今、東京の文化の中心地として親しまれています。他にも、各ヒルズにおける多様な文化施設やパブリックアートを通じて、東京の磁力向上に努めてきました。

文化施設(例)



サントリーホール(アークヒルズ 1986年)



森美術館(六本木ヒルズ 2003年)



TOHOシネマズ六本木ヒルズ(六本木ヒルズ 2003年)



東京シティビュー(六本木ヒルズ 2003年)



森ビル デジタルアート ミュージアム:エプソン チームラボボーダレス
(パレットタウン内 2018年開館・2022年閉館)



TOKYO NODE
(虎ノ門ヒルズ ステーションタワー 2023年予定)



森ビル デジタルアート ミュージアム:エプソン チームラボボーダレス
(麻布台ヒルズ 2024年予定)



麻布台ヒルズギャラリー(麻布台ヒルズ 2023年予定)

パブリックアート(例)



ママン
(六本木ヒルズ)



薔薇
(六本木ヒルズ)



Kin no Kokoro
(六本木ヒルズ)



高山流水-立体山水画
(六本木ヒルズ)



ロボロボロボ(ロボロボ公園)
(六本木ヒルズ)



無限
(アークヒルズ 仙石山森タワー)



Untying Space
(虎ノ門ヒルズ 森タワー)



あたらしい水/Floating Colors
(虎ノ門ヒルズ 森タワー)



Universe 29
(虎ノ門ヒルズ 森タワー)



ルーツ
(虎ノ門ヒルズ 森タワー)



Cycloid V
(虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー)



Blow If You Will Float in the Wind
吹、如你願在風裏、泛
(虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー)



無題
(虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー)



マター(イメージ)
(虎ノ門ヒルズステーションタワー)



Pinky(イメージ)
(虎ノ門ヒルズ ステーションタワー)



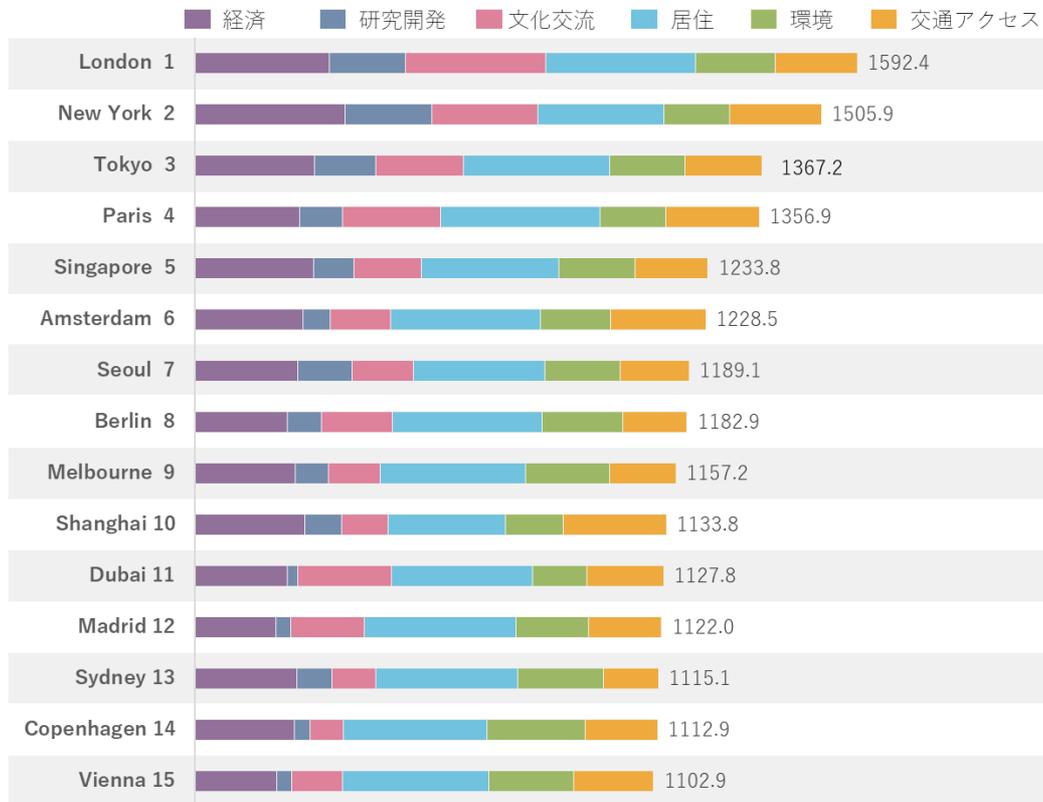
相互に繋がらあう瞬間が協和する周期(イメージ)
(麻布台ヒルズ)



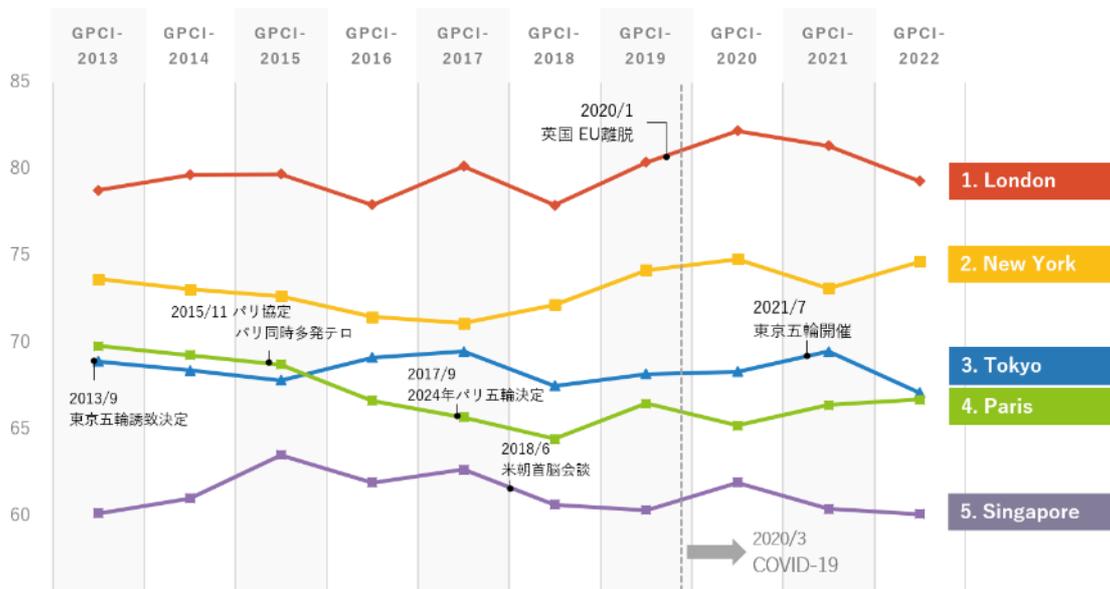
東京の森の子(イメージ)
(麻布台ヒルズ)

参考：世界の都市総合力ランキング2022

森ビルのシンクタンクである森記念財団が毎年実施している「世界の都市総合力ランキング」(Global Power City Index, GPCI)は、国際的な都市間競争において、人や企業を惹きつける“磁力”は、その都市が有する総合的な力によって生み出されるという考えに基づき作成されており、世界の48の主要都市の「総合力」を経済、研究・開発、文化・交流、居住、環境、交通・アクセスの6分野・70指標で複眼的に評価し、順位付けしています。



1位 ロンドン、2位 ニューヨーク、3位 東京、4位 パリ、5位 シンガポールというトップ5都市の順位には2016年から変化がないものの、新型コロナウイルス感染症の拡大から約3年となる2022年の調査では、コロナ禍に対する各都市の対応の違いが明確に調査結果に表れ、各都市のスコアに大きな変動がみられました。慎重なコロナ政策を実施した東京は、「文化・交流」の「外国人訪問者数」、「交通・アクセス」の「国内・国際線旅客数」などでスコアが低下。スコアが伸長する4位のパリとのスコア差は僅差となっており、コロナ禍の収束とともに再び都市の力を向上させられるかが注目されています。



東京の強みと課題

GPCI-2018とGPCI-2022の東京のスコアを比較すると、東京の強みである「従業者数」や「ホテル客室数」はこの5年間で着実にスコアを伸ばしていることがわかります。一方、同じく東京の強みである「世界トップ500企業」「研究者数」「研究開発費」などはこの5年間でスコアが下落。また、東京の弱みについては、「リサイクル率」などが改善する一方で、「緑地の充実度」などはさらにスコアが下落しています。

直近5年間で東京に関する各指標の変動をみると、偏差値を落としている指標数の方が多くことがわかります。ただし、偏差値の下落にはコロナ禍による影響も大きいことが明らかであるため、コロナ禍が収束するとともに、「外国人訪問者数」や訪問者数増減の影響を受けやすい「買物の魅力」「食事の魅力」などは、大幅に回復する可能性が高いと言えます。

さらに、2030年までに控える複数の都市再開発などを通じて、「飲食店舗の多さ」「緑地の充実度」「外国人居住者数」などのスコアも伸長する可能性が高く、「法人税」や「優秀な人材確保の容易性」などに対する政策を並行して推進することができれば、コロナ禍の収束とともに、東京の都市力向上に向けた新たなスタートを切れる可能性が高まるでしょう。

強み（偏差値 65 以上）			弱み（偏差値 50 以下）				
UP			UP				
経済	2 指標	GDP ▶	居住	2 指標	物価水準の低さ ▲		
		従業者数 ▲			メンタルヘルス水準 ▲		
文化交流	3 指標	文化イベント開催件数 ▲	環境	2 指標	再生可能エネルギー比率 ▲		
		劇場・コンサートホール数 ▲			リサイクル率 ▲		
		ホテル客室数 ▲			タクシー・自転車での移動のしやすさ ▲		
DOWN			DOWN				
経済	1 指標	世界トップ500企業 ▼	経済	3 指標	GDP成長率 ▶		
研究開発	3 指標	研究者数 ▼	研究開発	2 指標	優秀な人材確保の容易性 ▼		
		研究開発費 ▼			法人税率の低さ ▼		
		特許登録件数 ▼			世界トップ大学 ▶		
文化交流	2 指標	買物の魅力 ▼	文化交流	5 指標	留学生数 ▼		
		食事の魅力 ▼			コンテンツ輸出額 ▼		
居住	1 指標	飲食店の多さ ▼			居住	4 指標	世界遺産への近接性 ▼
		公共交通機関利用率 ▼					ハイクラスホテル客室数 ▼
交通アクセス	1 指標				環境	1 指標	外国人居住者数 ▶
		外国人訪問者数 ▼					
			働き方の柔軟性 ▼				
			交通アクセス	3 指標	自然災害の経済的リスクの少なさ ▶		
					社会の自由度・平等さ ▼		
					ICT環境の充実度 ▼		
					緑地の充実度 ▼		
					国際線直行便就航都市数 ▼		
					通勤・通学時間の短さ ▼		
					渋滞の少なさ ▼		

(▲=偏差値上昇、▼=偏差値下落、▶=偏差値変化なし)

